

第8回 りぶ・らぶ・あにまるずシンポジウム2008
動物看護師の役割について

2008年シンポジウム記録集



NPO法人 Knots

目次

—第8回 りぶ・らぶ・あにまるずシンポジウム 2008—

『動物看護師の役割について』

開催概要	p. 2
抄 録	p. 3 - 8
「包括的獣医療を支えるもの -アシスタントから、アソシエイトへ、テクニシャンから、スペシャリストへ-」 座長 植村 興氏 / 四條畷学園大学教授	p. 4
「動物看護職に期待すること」 玉井 公宏氏 / (社)和歌山県獣医師会 会長	p. 5
「動物看護師のこれから ~1次医療の現場から~」 崎山 法子氏 / 王寺動物病院 取締役 動物看護師主任	p. 6
「動物看護師の役割」 富永 良子氏 / ネオ・ベッツ VR センター 動物看護士長	p. 7
謝辞 富永佳与子 / NPO 法人 Knots 理事長	p. 8
記録集	p. 9 - 42
【冒頭スピーチ】	p. 10 - 11
【基調講演】 「動物看護職に期待すること」 玉井 公宏氏 / (社)和歌山県獣医師会 会長	p. 12 - 19
【情報提供】 「動物看護師のこれから」 崎山 法子氏 / 王寺動物病院 取締役 動物看護師主任	p. 20 - 26
「動物看護師の役割」 富永 良子氏 / ネオ・ベッツ VR センター 動物看護士長	p. 27 - 33
【パネルディスカッション及び質疑応答】	p. 34 - 42
パネリスト	
・ 玉井 公宏氏	
・ 崎山 法子氏	
・ 富永 良子氏	

第8回らび・らび・あにまるず シンポジウム 2008

『動物看護師の役割について』

開催日時 2008年7月13日(日)13:00~15:30
開催場所 学校法人 神戸学園 神戸動植物環境専門学校10F ジュリアホール
主催 NPO法人Knots
協力 学校法人 神戸学園 神戸動植物環境専門学校 / 日本動物看護学会
目的 少子高齢化が進む中、ペットは今や家族の一員、共に生きるパートナーとしてその地位を確立しつつあります。飼い主は大切なパートナーの健康管理に日々心を砕いており、中でも獣医療への期待は予防医学を含め益々高まっております。
そのような状況の中、獣医療の現場で獣医師と並び、飼い主とコミュニケーションを取り、日々の食餌管理や飼い方指導などに携わる動物看護師の役割も大変重要となってきたと思われます。
そこで、飼い主やペットにとって、満足度の高い動物看護師とはどうあるべきなのか。
今後どのような役割が動物看護師に求められるのか。
動物看護師の新たな役割について考察し、人と動物が共生できるより良い環境づくりの一助とします。

特別協賛  **ネスレピュリナ ペットケア株式会社**
助成 財団法人 中内カコンベンション振興財団
後援 環境省 / 兵庫県 / 神戸市 / 兵庫県教育委員会 / 神戸市教育委員会 /
(社)日本獣医師会 / (社)兵庫県獣医師会 / (社)神戸市獣医師会 /
(財)日本動物愛護協会 / (社)日本動物保護管理協会 /
(社)日本動物福祉協会 / (社)日本愛玩動物協会 / (社)日本動物病院福祉協会

プログラム

- 座長 植村 興氏 / 四條畷学園大学教授

開会宣言

基調講演 (30分)

「動物看護職に期待すること」

玉井 公宏氏 / (社) 和歌山県獣医師会 会長

情報提供 (各20分)

「動物看護師のこれから」

崎山 法子氏 / 王寺動物病院 取締役 動物看護師主任

「動物看護師の役割」

富永 良子氏 / ネオ・ベッツVRセンター 動物看護士長

休憩 (5分)

パネル・ディスカッション及び質疑応答 (1時間)

パネリスト

・玉井 公宏氏

・崎山 法子氏

・富永 良子氏

閉会宣言

—第8回 りぶ・らぶ・あにまるず シンポジウム 2008 —

『動物看護師の役割について』

抄録

包括的獣医療を支えるもの

—アシスタントからアソシエートへ、テクニシャンからスペシャリストへ—

四條畷学園大学教授

座長 植村 興



北京オリンピックは、色いろな視点から、将来の歴史教科書に数多く登場するに違いありません。世相にうとい私にも、選手が着用する水着競争には驚かされました。ハイテクノロジーを駆使した新開発製品の着用で新記録続出とか。選手の技量に加えて水着とかプール水の質などが成績を左右するのですから、これは、もう、個人の戦いではなく支援チームを含めた団体戦にほかなりません。プロ野球やゴルフなどの一流スポーツ選手には、用具の他、専属のコーチ、トレーナー、栄養士から心理士までもが戦いに備えて万全の態勢をとっているのです。

獣医療の高度化、多様化が進むにつれて、ひとりの獣医師で関連業務すべてに対応することは不可能になってきました。事実、小動物獣医施設の85%以上で、動物看護師などの支援者あるいは協力者が勤務しています。その総数は1万人を超えていますから、獣医師数に匹敵あるいはしのぐまでになっているのが現状です。伴侶動物獣医療ならびに関連業務はもはや、獣医師だけでは支えきれなくなっているのです。

医療分野では、法律によって看護師、助産師、救急救命士、理学療法士、作業療法士などの国家資格が定められ、関連する医療行為を行うことが認められています。臨床心理士は人の心に深く関わる専門家として活躍しています。X線技師、臨床検査技師なども専門職として医療の現場を支えています。それらの専門職は、医師の単なるアシスタントではなく、包括

医療を支えるアソシエートとしての立場が社会的に認知されています。

社会生活の進化、多様化にともなって、獣医療ならびに動物取扱に関する業務も増大し、専門家しつがあります。獣医療技術の他、動物の躰け、技能開発の訓練、繁殖管理、野生動物の保護・管理、栄養・健康管理など、高度専門職候補が数多く挙げられます。トリミングやファッションも人々を惹きつける特殊技術の位置を占めるでしょう。

社会から専門職として認知されるには、しっかりした教育システムで得られる高い技術の保証が必要です。一般の人が及ばないスペシャリストと言われるまで高めなければなりません。単なる「お手伝い」ではなく、包括的獣医療を支える専門家を社会は求めているのです。

アシスタントからアソシエートへ、テクニシャンからスペシャリストへ、そのために今、何が問題か、何をなすべきか、そして、その実現へのロードマップを皆さんと一緒に考えてみましょう。

さいわい、本日はわが国の獣医療の現場を熟知されておられる玉井獣医師、動物病院における経験豊かな崎山法子動物看護師ならびに富永良子動物看護師をお招きし、現場から生の話題を提供をしていただきます。そして、フロアーからも可能な限り、多くのご意見をたまわります。

基調講演 動物看護職に期待すること

社団法人和歌山県獣医師会会長

玉井 公宏



動物看護職がいなければ、私達獣医師だけでは仕事の本領を十分に発揮することができません。社会構成の一分野として、家庭の一員として、人々のパートナーとしての動物達の位置づけが高く変化するに従い、獣医療に課せられる責任と期待が重く大きくなってきているからです。

動物達の位置づけが正しく認識されるようになってきたのは社会情勢や人々の意識が変化してきたからです。私達獣医師も自らの仕事に誇りを持ち、果たせる役割を考え、自己研鑽と社会啓発に相当な努力をしてみたいです。

ですから、当然、私達獣医師は動物診療に係るパラメディカル専門職としての動物看護職に期待し、応援し、一緒になってさらに動物医療の質を高め、一層の社会貢献をしたいと願う気持ちが強いのです。

これまで、日本では動物看護職に関する統一的な全国組織や法的な資格はありませんでした。しかし、先進的な団体や組織の永年にわたる地道な活動実績を踏まえて、いよいよ大きく動き出すことになりました。本年2月に香川県高松市で開催された平成19年度日本獣医師会学会年次大会において動物看護職全国協会(仮称)設立準備会が発足しました。5月25日には東京で第1回会合が開催され、来年1月に岩手県盛岡市で開催される平成20年度同大会内での動物看護職全国協会(仮称)設立総会をめざして活動が始まっています。このようなステップを経て、近い将来、公的資格をも含めた動物看護職に関する法的整備が行なわれていく道筋が見えてきました。

このような明るく大きな希望に満ちた動物看護職に対する獣医師の期待も大きくなるばかりです。多岐にわたる獣医療の一部を専門教育の成果をフルに発揮する信頼できる専門技術職として担い、また、動物を介在した様々な社会貢献に尊敬される社会人として視野と活動域を拡げていって欲しいと願っています。

獣医師の期待は容易に想像できると思いますし、使命感を共有できれば応えていくのはさほど難しくなさそうです。むしろ、獣医師以外の皆様の期待のほうに計り知れず大きいことを忘れてはいけません。動物達とその周囲の人々はもちろん、子供たち、動物とあまり縁の無い人々、企業、行政、社会の期待にも応えることが重要です。

彼らに受け入れられるためには、動物看護職の専門知識や技能は必要条件ではありますが、決して十分条件ではありません。どんなに専門が分化し高度化していこうとも、動物診療の現場に雑用という仕事は無く、あらゆる場面を尊敬されるプロとしてスマートにこなさなければなりません。ホスピタリティー、思いやり、愛情、自己犠牲心、コミュニケーション力、観察力、想像力などが無くてはこの仕事で社会の期待に応えることはできません。

心身ともに酷使し、感情労働ともいわれるこの仕事を専門職として遂行するには、幅広い知識や経験に基づく総合的な人間力が必要なのです。

社会に受け入れられる動物看護職がさらに発展していくことを期待しています。

動物看護師のこれから

～一次医療の現場から～

王寺動物病院 取締役 主任動物看護師

崎山 法子



私達「動物看護師」を取り巻く状況は、ずいぶん変わってきたのかもしれませんが。ただのお手伝いさんではなく、獣医師のパートナーとして「動物看護師」という職業が認知され始めたからなののでしょうか。

動物看護師の仕事量、内容は多岐にわたります。一次医療の現場では、診療補助や入院／外来動物看護、受付や備品管理に至るまで獣医師が行わない仕事はすべて行います。また、何を行うにしてもコミュニケーションを図ることがもっとも重要な役割としてあげられます。コミュニケーションには、飼い主と動物と獣医師、そこに関わる人を繋ぐ役割があり、一次医療の現場では密接にすべてが絡み、動物看護師が絶妙なバランスを取っています。動物看護師は病院にとって潤滑油のような役割を担っているのです。

動物医療はこれから様々な問題と向き合わなくてはなりません。動物看護師はその中で大きな役割を担っていくことは間違いないと思われれます。ヒトと動物が快適な生活を送るためのマナーやしつけの問題、ペットの高齢化に伴う様々な問題、求められる専門性など。そして、これからの動物看護師の方向性や役割についてです。

課題を一つ一つクリアするには、動物看護師自身の自己研鑽と、各方面から信頼を得ることが優先事項だと言えます。

信頼を得るには、動物看護師がプロとして自立しなくてはなりません。そして、自分たちの行っている看護を記録として残し、共有することで実績を積み上げるよりほかないと考えます。

最近、動物看護師の国家資格化に向けての動きなどが各方面であるようです。嬉しい半面、不安を覚えます。今の私達で本当に大丈夫なのでしょうか。私達はその責任を負えるのでしょうか。命の現場で働く上で、その重みの責任をとれなくて、なにを任せてもらえるのでしょうか。いくら枠組みが素晴らしくても中身が伴わなければいずれ破綻してしまいます。「認めてほしい」と言うのは簡単です。そのためには何をしなくてはならないかを考え、目標に向かうプロセスを大切にすることが必要なのではないでしょうか。

毎日を漫然と過ごすのではなく、変化を拒否するのではなく、動物看護師のこれからを考える必要があります。後に続く者や、救いを求める者が待っている道です。自分だけ良ければいい訳ではありません。動物医療に関わった人すべてに、多かれ少なかれ動物看護師の未来への責任があります。一人一人の動物看護師が、自分たちのこれからを支えていることを自覚しなければならないと考えています。

明日に進むための「今」を共に考えましょう。

動物看護師の役割

ネオ・ベッツVRセンター 動物看護師長

富永 良子



はじめに

私が勤務するネオ・ベッツVRセンターは、2005年10月に開院した、ホームドクターからの紹介症例のみを受ける2次診療施設であり、整形外科、神経外科、眼科、軟部外科、内科を中心とした診療を行っている。

スタッフは、常勤獣医師が14名（非常勤獣医師は10名以上いる）、VTが18名、受付事務が7名勤務している。

仕事内容

私たちVTの主な仕事は、診察補助、検査実施、手術補助、入院看護、掃除、在庫管理などがある。受付は、事務スタッフにまかせ任せているが、不在の場合はVTが行っている。2次診療施設ならではの業務としては、ホームドクターからの診療予約を受けることなどがあげられる。

看護師長としての仕事は、他のVTの経験や能力を考慮して仕事分担やVT出勤シフトの決定、院内で行う獣医師や事務局との打ち合わせ会議への出席、VT会議の開催、考課のための後輩VTの評価、新人VTへの教育プログラムの構築などがある。

当院の現状

当院は、2次診療施設であるため健康な患者の来院はない。クリティカルな患者の来院が多く、26室ある入院室はほぼ満室に近い状態である。

元気に退院することほど嬉しいことはなくやりがいを感じるが、治療の甲斐なく亡くなってしまふ患者も少なくないため精神的に耐え難い時もある。

また、日常的に麻酔をかけることも多く何らかの問題を抱えた患者への麻酔管理は特に気が抜けない。

VTの役割とは

私は、VTの役割は獣医師の診療が患者と飼主にとってより良いものになるようなサポートすることが大切だと考えている。そのためにも患者や飼主、そして、

獣医師を理解しようとする気持ちが大切である。また、自分が1人の飼主だという気持ちもなくしてはいけないことだと思う。

病院内でのVTの仕事はまず掃除から始まる。VTは患者や飼主が不快感なく安心して診療を受けられるようにすることが大切であり、そのためにも病院内を清潔に保つことは重要である。そして、そのことが獣医師の診療を円滑にすると考える。院内が汚いということはその病院のVTの質が問われるほど重要なことであり、清潔でない病院では、飼主が自分の大切な家族の一員である動物たちを受診させたり、安心して入院させたいとは思わないであろう。それゆえに、VTにとって掃除は重要な役割だと考える。また、VTにとって「看護」が最も重要な役割であると思うが、掃除のできないVTに良い看護は提供できないとも考えている。

まとめ

言葉を話せない動物の医療は、人間の小児科と同じようなものだと思う。

家族の中の位置づけとしても子供同様であり、私達VTに求められる役割はより深いものとなっている。獣医師と共に動物医療に関わるVTとして、今後はより高い意識と向上心を持ち続けることが大切である。

VTであることに誇りを持ち、魅力ある職業にしていることが、現役VTの一人としての私の役割でもあると考える。

そのために、自分が今できることは精一杯VTである姿を後輩達に見せること、自分の想いを人に伝えることだと思っている。

謝辞

NPO法人Knots 理事長
富永 佳与子



先日、阪神・淡路大震災時の動物救援について書かれた一冊の本が出版されました。

未曾有の被害をもたらした大きな地震。街が壊れ、多くの人々が亡くなり、余震の続く毎日の中で、被災動物の救援に立ち上がった人々がいました。

人の救援もままならない中での動物救援。それでも、人と同様に動物も助けてほしいと国内外から沢山の支援、応援がありました。

何故、あの時あのような大規模な動物救援を組織立って行うことが出来たのでしょうか。

それは、人として「動物達の命」を預かっているという大きな「責任」を、関わった人々が共有し、それを果たそうとしたからなのではないかと思えます。

動物看護師の方々は、獣医師の皆さんと並んで、一番「命」に近いところで、「命」を守る為に日々戦っておられます。そこには、やはり「動物の命」に対する大きな責任を負っているという想いを常に感じておられるのだと思います。

そして、飼主の皆さんの多岐に渡る期待や相談にも応えていかななくてはなりません。

今、動物看護師の役割は、クローズアップされてしかるべき時期だと考えます。

このような中、本シンポジウム開催を実現できたことは、嬉しい限りでございます。

第1回よりご支援を続けて下さっているネスレピュリナペットケア株式会社、同様に最初からご助力頂いております、中内カコンベンション振興財団、そして本シンポジウム開催にあたり、ご協力下さいました全ての皆様方に深く感謝申し上げます。

そして、この機会を受け、2009年12月にごく、神戸にてアニマルケアをテーマとしました国際会議「りぶ・らぶ・あにまらず 神戸アニマルケア国際会議」の開催を発表させていただきます。大変な喜びと緊張を感じております。動物の命に対して人間が果たしていかなねばならない「責任」について、本会議で一緒に考え、神戸をアニマルケアに関する情報の集積・発信の場としていきたいと存じます。皆様方のご支援、ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

本会議が皆様方の更なる進歩の「場」として使って頂けますことを心より祈念致します。

発行元

◆ NPO法人Knots

〒650-0004 神戸市中央区中山手通6-6-7-405

TEL & FAX: 078-341-5884 (電話受付時間: 火～土曜 13:00～17:00)

URL: <http://knots.or.jp> E-mail: info@knots.or.jp

the Knots Shop URL: <http://knots-shop.com>

Copyright © 2008 NPO Knots

—第8回 りぶ・らぶ・あにまるず シンポジウム 2008 —
『動物看護師の役割について』

記録集

日時 2008年7月13日(日)13:00 - 15:30
場所 学校法人 神戸学園 神戸動植物環境専門学校
10F ジュリアホール

冒頭スピーチ



富永 佳与子
(司会／NPO 法人 Knots 理事長)

皆様、本日はお忙しい中たくさんの御来場を賜りまして、まことにありがとうございます。

司会を務めさせていただきますNPO法人 Knots 理事長の富永でございます。本日は

よろしくお願ひいたします。

既にごらんになった方もいらっしゃると思いますが、本日はロビーに阪神・淡路大震災時に行われた動物救援の様子を御報告したパネルを大震災動物救護メモリアル協議会様に御協力いただきまして展示させていただいております。メモリアル協議会様、御協力まことにありがとうございます。

ここで10分ほどお時間をちょうだいいたしまして、阪神・淡路大震災動物救援事業を振り返ってみたいと思います。

1995年に突然起こった未曾有の大震災、当時、私たちが被害者の一人でした。毎日が無我夢中でした。そんな中、動物救護のために立ち上がった人々がいました。獣医師の先生方、動物関係団体、企業の方々、そしてボランティアの方々など、たくさんの人々が協力し、救援活動が行われました。こちらはそのときの様子です。

5月には立派な犬舎ができました。その努力は地震などの災害時に動物へも救援の手が差し伸べられるというシステムの確立へとつながりました。その後、各地で起こった震災でも、このシステムは活用され、動物救援活動が行われています。

このときの動物救援で進んだことの一つに、成犬譲渡があります。今となっては当たり前のことのように、譲渡された動物たちを追跡調査し、当時は子犬から育てないと懐かないとされていた常識が覆り、成犬でも十分に家族の一員になることが確認され、その後の動物愛護法の改正も相まって、処分から譲渡への流れをつくる大きな転機となったのです。

震災からことして13年がたちました。この間、人と動物の関係はより深いものへと劇的に変化してきました。ともに過ごしやすい世の中へと変わりつつあります。そのスタートは、あの動物救援にあったと考えている関係者は少なくありません。

このように大きな力を持った活動が一人の飼い主と獣医師の深い信頼関係によって支えられていたことは、意外に知られていません。

救援本部の中で中心的な役割を負っていた当時の神戸市獣医師会会長、旗谷昌彦先生と日本動物福祉協会阪神支部前副支部長、松田早苗様です。松田様のペットたちのホームドクターであった旗谷先生。お二人の深い信頼が、あの恐ろしい混乱の中で、周りの方々に伝播し、強い気持ちを与え、この救援を支えたことは間違いありません。

現在も旗谷先生は旗谷動物病院の院長として日々たくさんの飼い主さん、動物たちに接しておられます。

また、松田様は、全国に先駆けて、神戸市動物管理センターで行われている行政、民間団体、市民の協働による収容犬譲渡の取り組みに大きく尽力されました。現在は神戸市動物管理センター譲渡事業支援ボランティアグループ社団法人日本動物福祉協会CCクロが立ち上げられ、譲渡活動が進められています。松田様は、このCCクロのアドバイザーを務め、後続の方々の育成に力を入れておられます。

本日は松田様が会場にお見えになっておられます。皆様拍手をお願いします。

昨年、厚生労働省の通達で、処分から譲渡への動きは全国的なものとなりました。命を救う取り組みが始まっています。

私たちは阪神・淡路大震災で家族、友人、家、仕事など、たくさんの大切なものを失いました。みずから被災者でありながら、それでも困っている人や動物を助けようと必死でした。もちろん世界中の人々の応援や御支援もありました。

なぜ、あの大規模な動物救援ができたのか。それは命を救いたいという強い思いにほかにありません。あの想いを私たちは忘れてはいません。それは私たち人間が動物の命に対して大きな責任を負っていることの原点だからです。被災した動物たちだけでなく、私たちが日々の生活でかかわる伴侶動物や産業動物、野生動物として例外ではありません。私たち人間の経済活動や生活から彼らは大きな影響を受けています。彼らすべての命に対して私たちは責任があるのです。その責任をどのようにして果たしていくべきなのか。大きな震災を体験したここ神戸で皆さんと一緒に考えていきたいと思い、2009年12月にアニマルケアをテーマとした「りぶ・らぶ・あにまる神戸アニマルケア国際会議」を開催いたします。

本会議は大震災動物救護メモリアル協議会様及び神戸市動物愛護協会様との共催によって開催いたします。また、5名の方々をアドバイザーにお迎えいたしております。

本日、座長をお務めくださいます植村先生、基調講演をくださいます玉井先生、赤坂動物病院院長の柴内裕子先生、社団法人日本動物福祉協会獣医師調査員の山口千津子先生、ペット研究会「互」主宰の山崎恵子先生です。皆様拍手をお願いします。

また、本シンポジウムを特別協賛くださいましたネスレペリナペットケア株式会社様が引き続き特別協賛企業として御支援くださっています。

ネスレペリナペットケア株式会社カスタマーディベロップメント統括部長の高山様が本日この会場にもお見えになってくださっています。皆様拍手をお願いします。

また、本日会場提供などに御協力いただきました学校法人神戸学園神戸動植物環境専門学校様も特別協力団体として多大な御協力を賜る予定でございます。

また、御協力団体として社団法人日本獣医師会様、NPO法人野生動物救護獣医師協会様が強力なサポートをさせていただきます。このネットワークは今後さらに広がる予定です。

本日のシンポジウムにお集まりの皆様は、アニマルケアの中核とも言べき役割を担っておられます。本会議は人間全体から動物全体への責任について、さらに考察を深めていくものとなります。

本会議では、小学生の皆様から御参加、御発表をいただけます。皆さんの日ごろの活動や研究の成果を発表していただき、情報交換、議論ができる場を御提供したいと思います。

また、併設で展示会も開催いたします。こちらでは、ユーザー、専門家、メーカーの3社がダイレクトに御交流いただき、今後のケア製品向上のお役に立てていただきたいと存じております。もちろん、団体、学生の皆さんの発表の場としても御活用ください。詳しくは、皆様にお渡ししております資料の中にパンフレットがございます。そちらをごらんくださいませ。皆様の御参加を心よりお待ちしております。

それでは、ただいまより第8回らぶ・らぶ・あにまるずシンポジウム2008「動物看護師の役割について」を開始いたします。

近年、飼い主にとってペットは伴侶動物、パートナーなど、家族と同義語としてとらえられるようになってまいりました。大切なパートナーの健康管理は、飼い主にとって大変重要な関心事の一つとなっております。それに伴い、獣医師や動物看護師に期待することは、病気やけがの治療だけではなく、パートナーをいかによい状態で長生きさせることができるかといった日々の健康管理に対する指導、アドバイスなどへと大きく広がってきております。

飼い主により近い立場でコミュニケーションをとる機会が多い動物看護師について、獣医療の補助のほかに、今後どのような役割が求められていくのでしょうか。

本日は獣医療現場の前線で活躍されている獣医師、一次医療、二次医療、それぞれの現場に携わっておられる動物看護師の方々をお招きし、動物看護師の現状や、現場への取り組み、また将来像などについてお話しいただき、考察を深めたいと思います。

本日、シンポジウムの座長をお務めくださいます植村興先生について御紹介をさせていただきます。

植村先生は大阪府立大学農学部獣医学部で長い間教鞭をとられておられ、現在は名誉教授でございます。四條畷学園大学リハビリテーション学部教授、麻布大学医学部客員教授、私立スタムフォード・バングラデッシュ大学客員教授、家畜衛生学会理事など、大変重要な職責を現在も務められており、法務省の保護司、大阪府動物由来感染症対策委員会の会長などなど、たくさんの場で御活躍をなさっておられる先生でございます。

それでは、植村先生どうぞよろしくお願いいたします。



植村 興

(座長 / 四條畷学園大学教授)

それでは、ただいまより第8回らぶ・らぶ・あにまるずシンポジウム2008「動物看護師の役割について」を開催させていただきます。

私は本日のこのシンポジウムの司会をさせていただきます植村でございます。

先ほど富永理事長からいろいろ詳しい説明がございましたが、本日のこの会では将来の日本の動物関係、動物医療のみならず、愛を通じて人の、今、世の中で非常にいろいろと問題が多いわけでございますけれども、新しい時代の、動物と人と自然とが共生して、この限られた命を大切にするという、こういう大切な役割を担う情報発信の場になるわけでございますので、皆様方の御協力を受けて、この会を意義あるものにしていきたいと思っております。

本日の会の進め方でございますが、まず基調講演といたしまして、和歌山県獣医師会の会長の玉井先生からお話をいただきまして、さらに動物看護師の先駆者と申しますか、日本のリーダーとして非常に活躍をさせていただいておりますお二方の先生からお話を伺って、その後、会場の皆様と一緒に、本日の問題についていろいろと議論をして、そしてよりよい方法を探っていきたいと、こういうふうに思いますので、皆様方の御協力、よろしくお願ひいたします。

それでは早速でございますが、第1の演者で玉井公宏先生を御紹介させていただきます。

玉井先生は、和歌山市でお生まれになり、大阪府立大学を卒業後、研修をなさって、そして81年に紀の川動物病院を開設され、現在に至って、第一線の動物病院の院長として御活躍でございます。その病院経営だけではなく、獣医師会におきましては、社団法人和歌山県獣医師会理事を経て、94年からずっとその後、獣医師会の会長を務めていただいております。また、和歌山県だけではなく、日本獣医師会の監事として日本獣医師会のリーダーの1人でございます。しかも、特に人と動物の関係に強い興味を持っていただきまして、そういたしまして獣医師会の日本の獣医会のリーダーとして御活躍でございます。

本日は本当にお忙しい中、このシンポジウムに御参加、快く引き受けていただきまして、これはまたとない機会でございますので、この動物看護の世界はどのような動きがあるのか、あるいは獣医師は動物看護師の皆さん方に何を望んでいるかということをお紹介していただきたいと思っております。

玉井先生、よろしくお願ひをいたします。

動物看護職に期待すること

玉井 公宏

社団法人和歌山県獣医師会会長



植村先生、ありがとうございます。

植村先生の御紹介で、きょう、こういうすばらしい会に、企画にお招きをいただきました。富永理事長さん初め、関係の皆様ありがとうございます。

それでは早速お話を進めたいと思います。

私に与えられておりますのは、動物看護職に期待すること、こういうテーマでございます。短い時間でございますので、さっと一方的に申し上げますので、また後のシンポジウムの際にどンドンと突っ込んだ質問をしていただけたらありがたいと思っております。

まず、私たち獣医師、それからきょうのシンポジウムのテーマであります動物看護職の皆さん方、こういった方々と私たちが一緒になって仕事をしておりますのは、動物の診療の現場ということです。動物の診療の現場ですので、当然仕事の対象は動物ということになりますが、人の医療においても当然対象は人なわけですが、人と人とは家族、友人、いろんな関係で密接に、また複雑な関係を持っておりまして、今さら人と人のきずなというふうなことは特に言う人はいません。あって当たり前のことだからですね。

私たちの仕事の対象は動物なんですが、獣医の人も、あるいは動物看護職の皆さんも勘違いしてはいかんののは、対象が動物であるから動物のことだけを勉強し、それに対する仕事だけをしたらいいということであってはいけないということなんです。すなわち、その動物一頭一頭には常にその周りに人がいて、その人と動物が密接な関係を持っています。

Human Animal Bond (H.A.B.)

□ ヒューマン アニマル ボンド(人と動物のきずな)

□ 家族の一員

□ 社会の一員

□ 人の手が必要

□ 寿命が人よりも短い

□ ドラマの展開



【スライド1】

ヒューマン・アニマル・ボンド、人と動物とのきずなと、こういうふうに略しておりますし、HABという略称で呼ばれることが多いわけですが、私たちの仕事、動物看護職の皆さん

ん方の仕事というのは、常にこのヒューマン・アニマル・ボンドという理念がベースになれば、職業としての仕事をなさないということでもあります。当然、看護職の皆さんに私たち獣医師が期待することも、また社会の皆さん方が期待することも、この一言に尽きるということです。【スライド1】

今からお話することは、すべてこのヒューマン・アニマル・ボンドというキーワードに裏打ちされたお話というふうに理解をお願いいたします。

申し上げるまでもなく、動物たちは既に家族の一員、また人の伴侶として重要な、あるいはなくてはならない地位を占めています。そのことの実績の積み上げの中で、今や日本国においても、これはもちろん世界中においてもですけども、人間が構築構成する社会の一員としてもなくてはならない地位、または立場を動物たちが担っています。

残念なことに、まあ残念なことと言いますか、そのおかげで私たちの仕事があるわけですが、それほど重要な地位を占める動物は、動物たちだけでは生きていくことはできませんし、もっと言えば病院に自分で来ることができないわけで、常に人の手が必要なわけで、その人というのがヒューマン・アニマル・ボンドによって結びつけられている周辺の人でありますし、今度は職業としてその動物のケアをする私たち獣医師、あるいはきょうおいでの皆さん方、動物看護職の方々ということになります。

また、動物たちは生物学的にほとんどの伴侶動物、家庭動物というのは人よりも寿命が短いということが始めからわかっています。生まれて間もない、あるいは小さい子犬、あるいはまたいろんな理由があって大人になってからでもいろんな動物が皆さん方の手元に来るわけですが、ほとんどの方はその動物たちの最後を見届け、見送ることになります。そのことは初めからわかっているわけでありまして、そのことの中で数多くのドラマが展開され、動物たちはもちろん幸せにその一生を送ってほしいわけですが、その命をかけた動物たちとのヒューマン・アニマル・ボンドの中で、周辺の人々がそのドラマの中で成長していく、そういうシチュエーションがあります。このことがあるからこそ、私たちの仕事が成り立つわけで、看護職の皆さん方の仕事もやりがいが出てくるわけでもあります。

そもそも人が飼う動物、これはアニマルウエルフェアと、日本語にはきちんとした訳語はない、日本人にそういう概念があったかどうかは別として、アニマルウエルフェアとい

Animal Welfare

- アニマルウェルフェア（動物の福祉）
- 動物の生理的欲求・行動的欲求を満たす
- 人間がこれらのことをよく整えてやって初めて動物が健康を保つことができる
- 幸せにくつろいでいる動物の姿が人を癒す

- 人の福祉につながる

【スライド 2】

う言葉で、その動物たちを守ってやらなければなりません。

【スライド 2】 お腹がすいたら食べ物が欲しい、のどが渴けば水が欲しい、うんちもしたい、おしっこもしたい、そういう生理学的な欲求を満たすこと。これは当然当たり前のことでありますが、動物それぞれが種類により、また一頭一頭習性、そういうものも違います。そういう個々の動物に対する行動学的な欲求も、人がその責任の中で満たしてやらなければなりません。こういうことができ初めてヒューマン・アニマル・ボンドが成り立つわけですし、ヒューマン・アニマル・ボンドの中で、アニマルウェルフェアを保たれた動物たちだけが人をいやすことができ、人の社会の中で存在することができる。繰り返しますが、そのことを責任を持って果たすのは人の役目であるということです。

そういう動物の臨床の現場、私たちが働いております現場ですが、このことをちょっと説明をいたします。

動物の診療

- 犬猫合わせて 2,500万頭（人口の20%）
- 動物病院 8,000施設（病医院の7%）
- 動物病院獣医師 14,000名（医師の5%）

- 動物看護職 8,000名～20,000名
（看護師・准看護師の0.7～1.7%）

【スライド 3】

今、日本の国の中には犬猫合わせて約 2,500 万頭の動物が飼育されていると言われていています。言われていますというのは、きちんとした統計がないので、はっきりしたことがわからないということですが、おおよそ 2,500 万頭、1億数千万と言われる日本人の人口の、おおよそ 20%の頭数の犬猫が飼われていると推測されています。【スライド 3】

その犬猫を中心とした愛玩動物、伴侶動物、こういったものを診療する動物病院は、国内に 8,000 カ所あると言わ

れています。その動物病院で働く獣医師は、約 1万 4,000 名いると言われていています。また、その動物病院のほとんど、今これもはっきりした数字はないんですが、90%、9割ぐらいの動物病院に看護職の皆さんが仕事をしておられるというふうに、これも推測されています。

これは後から述べますが、まだ日本では動物看護職の皆さん方をきちんと統計するシステムがございませんので、一体何人の人が働いているかということ、この実数すら現在わかっておりません。推測によりますと、8,000 名から 2万名いると言われていています。

今のスライドにありますように、犬猫の頭数が人口の 20%、動物病院の数が 7%、人間の病院の、人間の病院という言い方もおかしいんですが、その病院の 7%、獣医師は医師の 5%、そしてこの動物看護職、実数は明らかではありませんが、人の看護師さん、准看護師さんが 120 万名いると言われていていますので、約 1%前後、2%ないということでもありますので、普通に仕事をしていく中で、動物看護職の皆さんの数がまだ全然足りないということが言えます。

獣医療の多様化

- 個人病院(小・中・大)
- 専門診療病院
- 高度獣医療病院
- 夜間救急動物病院
- etc.

- 動物看護職の
役割も多様化



【スライド 4】

その動物を診療する動物病院であります。獣医の先生 1人でやっている病院から、獣医師の数が何十名、看護職の方が何十名、100 名近い、そういった大きな病院まで、その経営規模、あるいは診療の規模はまちまちです。1日に数頭診療するというふうな病院もあります。1日に数百頭というところまでいくのかもしれませんが、そういう幾つも診察室があって、たくさんの動物を診療している病院があります。

【スライド 4】

そんな中で、整形外科、骨折の手術だとか整形外科的な病気のための改善の手術、そういったことにたけて、それを専門にする病院、目の病気、眼科に特化した病院、皮膚科に特化した病院、いろいろあります。当然、普通の病院や医院に行けば何々内科とか何々皮膚科とか、整形外科病院だとか、人間の医療ではあつて当たり前のことですが、動物病院においてもそういう専門特化ということがだんだんと見えてきております。

また、それぞれの病院では高額な医療機器、あるいは高度な技術を持った獣医師を雇用することがなかなか困難な現状にありますので、またそういったことは個人の病院におりますと、1年間に数頭もそういう大層な病気の子がこないという中で、そういった個人の病院では手に負えない病気やけがのことを、二次的に獣医さんから紹介を受けてやる病院。

それから夜中、これは特に個人でやっている開業の先生は、夜、若いうちはやれるんですけど、だんだんと夜起きて徹夜の手術になると、次の日の診療がへろへろになってしまうと、こういう現状がありますので、夜間だけをリーフしていただける病院、これが需要と供給のバランスの中で出てまいりまして、半ばいわゆるボランティア的な精神あつての話ですが、夜間の救急病院もあります。

このように、病院の形態がさまざまでありまして、私たち働く獣医師もその中でさまざまな多様化した仕事をしております。当然、そこで働いていただく動物看護職の皆さん方の仕事も多様化して当たり前でありまして、専門特化することもありますし、一口100人の看護職の方が集まれば、100通りの議論に話が膨らむというふうな現状がありますので、きょうはテーマとして動物看護職ということですが、決して一くりにしてはできない、ここではあくまで一般論であったり、多様化する中の、ちょっと目立ったところをお話するということしかできないということも御了承いただきたいと思います。

動物看護職の活躍

- 安心・安全・快適な診療環境造り
- 「獣医療」の入り口で案内係
- 獣医療補助
- 臨床検査
- チーム医療
- etc.

- コミュニケーション

【スライド5】

今現在、動物看護職の皆さん方は、今申し上げた、さまざまな多様化した診療現場の中で非常な活躍をいただいています。【スライド5】まず重要なことは、先ほど申しましたように、動物は自分1人でやってくるができないので、人、飼い主さんとかいろんな関係の方に連れてこられることがあるわけですが、その診療施設は動物にとってはもちろん、また連れてこられる飼い主さんや、いわゆる人間にとっても安心ができ、安全であつて、また快適な環境でないといかんわけでありまして。

それでなくても、動物の診療所には犬の毛だとかそういったものが人間の病院以上に飛散することが多いわけでありま

して、そういう目に見えるようなことをきちんとケアせんといかんわけでありまして、それができないようでありまして、今度は病原体だとか、人や動物にまた院内感染を起こすようなもの、あるいは注射器だとか注射の点滴のセットだとかについても、人間の病院でも最近ひどい事件がありましたが、点滴の液の中で細菌が繁殖して、治ると思って受けた点滴で亡くなってしまうようなことがある。こういう最近とかウイルスとか、病原体は決して目には見えません。だから、目に見えるような汚れすら取れてないような病院は、目に見えないような汚れがどんだけあるかわからんというふうなことでありますので、こういった安心な環境、まず診療どころか人と動物が来ていただくにふさわしい環境をつくるという仕事で活躍をしていただいている方もおられます。

それから、動物を動物病院に連れていくことはあんまりなじみのあることではありませんので、動物が病気になって初めて病院を探して連れてくる方もおられます。そういう飼い主さんに対して、安心をしていただいて、きちんとした診療が受けられるような飼い主さんの気持ちの整理をしていただいて、あるいはどこでどういう手続きをしたらいいかと、こういったことについて、いわゆる動物診療ということ、これは病院の受付係という意味で言うてるわけではありませんで、動物の診療というそのものの入り口、制度の診療の入り口の案内係として。

それから動物は1人で台の上に乗ることもできませんので、これを保定をしたり、獣医の先生がいろんな診療行為をするにつけて、その一つ一つについて補助をしていただくといけませんし、それから検査、臨床検査をする、いわゆる検査の係もして頑張ってくださいしております。

何であれ、獣医さん、飼い主さん、そういう人たちとチームを組んで、もちろん病院にはほかの受付のスタッフもいるわけですが、そういう人たちとチームを組んで仕事をいただいている、重要なメンバーの1人として活躍をいただいております。

何であれ、そういうときに必要なのはコミュニケーションということであつて、コミュニケーション能力ということ、能力と

動物看護職の活躍

- 獣医師とのコミュニケーション
- クライアントとのコミュニケーション
- 動物達の代弁者
- カウンセラー、コーディネーター

- 獣医師の仕事の質を高める

【スライド6】

いう言い方は、ちょっと語弊があるんですが、コミュニケーションをごく自然に、普通に、そして大事なことはプロとして、職業としてコミュニケーションができると、こういうことをやれる人が大いに活躍をさせていただいているということです。【スライド6】

申し上げるように、これは獣医師さんとのコミュニケーション。これは獣医師の身勝手な考え方なんですけども、やはり看護職の人たちとはツーカーで仕事がしたい。あれを、これこれこうして、ああしてこうしてと、細かい指示を出さなくても、ツーと言えばカーで仕事ができるようなチームを組みたいと思っておりますし、飼い主さんの皆さんも、自分の動物のことをいっぱい説明したいんだけど、ぼんぼんぼんと言えども要領よく聞いてくれて、飼い主さんの訴えたいことをきちんと整理をして獣医師に伝えてくれる。また、世間話も含めて安心できるような、動物を飼っている者の1人として、動物に関係する職業の人と楽しく仲よくおしゃべりしたいわけですが、そういうこと。

それから、もちろん一番大事なことは、動物たちの代弁者として、獣医師も飼い主さんも、おかげさまで口がついておりますので、ツーカーでいかなければ、ああしてこうしてと言いますし、飼い主さんもどうしてなのと言ってくれますけども、動物たちはかわいそうに何も言うことができません。だから動物が病院に連れてこられたときは、動物の代弁者として飼い主さんがうちの子病気なんです、何とか治してください、どうぞよろしくお願ひしますと動物を代弁して飼い主さんがしゃべるわけなんですけども、今度は診療が終わって、おうちへ帰るときには看護職の人が動物の代弁者として、きょうはこんな治療を受けてこういうことをしてるんだから、おうちではじっとして安静にしてください、こういうものを食べちゃだめです、これをあげてください、この薬は何時と何時に飲ませてください、それからあさっての何時には必ずまた来てください、お願いします。今度は動物の立場に立って看護職の方が飼い主さんをお願いをする。そういう頭の切りかえ、展開をスムーズにやっていただきたいと思っています。こういうことをうまくやっていただければ、私たち獣医師は非常にあ

りがたいと、仕事の質が高まっていくというふうに期待しております。

このように、獣医療に課せられる責任と期待というのが、社会の変化とともに、また今、富永理事長からお話がありましたように、この地においては阪神・淡路大震災という非常に大きな出来事があったわけですが、それを一つの契機にして、いろんな人の頑張り、活躍のおかげでどんどんと動物と人との関係、ヒューマン・アニマル・ボンドの大きさが変わってきています。その責任と期待を一生懸命受けとめようとしているのが私たち獣医師なんですけども、そこで獣医師だけで幾ら頑張ったって、獣医療というのはやっていけないということが、やってる本人が言うんだから間違いありません。わかってきております。そして、私だけかと思ったら、日本中の獣医さんがこれは大変と思っているわけで、獣医だけでは獣医療は無理なわけです。【スライド7】

そしてその獣医師ですけれども、これは国の施策、あるいは日本獣医師会の考え方という中で、1年間に1,000名ずつふやしていきましょうという計画がありまして、しかも御承知のように獣医師さんは、先ほど申しました獣医師の数というのは動物病院で働いている数でありまして、あと全部合わせますと3万数千名いるわけですが、そういう人たちが、皆さん方が知らないところで食の安全、これは植村座長さんの専門分野であります、食の安全・安心というところ、あるいは畜産物の生産、そういうところで非常に陰で、見えないところで活躍をさせていただいております。

そういう大事な、国にとってもっとも重要な、しかし陰に隠れて見えない、そういうところで仕事をしてる人もいますので、臨床現場に獣医さんがどんどん幾らでも来てほしいというわけにはいきません。だから、動物看護職の皆さんに対して獣医師がもっともふえてください、もっと来てください、もっと頑張ってくださいということの中で、今、活躍をさせていただいています。

動物病院、この中で獣医さんが一生懸命診療というところの責任を負ってやるわけなんですけども、ただそれだけじゃなくて、私のような看護職がいるからこの病院がもってるんだよと、そういうふうに思って活躍をさせていただいてる看護職の方がたくさんおいでです。皆さんおとなしいので、この病院をやっているのは私ですと言う人はあんまりいませんけども、私たちはこの人たちのおかげで病院が回っているなというふうに、日々感じています。

その看護職の人なんですけれども、きょうのシンポジウムのテーマにも動物看護職とか師とか、師でも師匠の師と侍の士と、このように。また英語的にはアニマルナースだとかベテリナリー・テクニシャンだとか、いろんな呼び名があって、日本ではこんなに一生懸命活躍をさせていただいてる人たちなのに、その職のきちんとした、統合された名前がござい

動物看護職の活躍



- 獣医療に課せられる責任と期待
- 獣医師だけでは獣医療は無理
- 獣医師の数は簡単には増えない
- 私達の病院では獣医師が心のこもった診療をしています
- そして、看護職の私が居ます

【スライド7】

動物看護職の呼称

- AN (Animal Nurse)
- VN (Veterinary Nurse)
- VT (Veterinary Technician)
- ANT (Animal Nursing Technician)
- AHT (Animal Health Technician)
- 動物衛生看護師
- 動物看護師
- 動物看護士

【スライド 8】

動物看護職の資格制度

- 日本では動物看護職に関する統一的な全国組織や法的な資格はない
- 先進的な団体や組織の永年にわたる地道な活動実績を踏まえて、大きく動き出す



【スライド 9】

ません。また、名前もちろんそうなのですが、日本では統一的な全国組織や、もっと言えば法的な、皆さん方の仕事を、資格を裏づけする法律、そういったものもありません。【スライド 8、9】

ただ、30年ほど前から一生懸命先進的な団体とか、いろんな組織が動物看護職の方を養成し、あるいは資格認定をし、またその仕事の区別をし、また勉強会をし、やっています。そういうことを踏まえて、いよいよここから動き出しました。まさにことです。この2月に香川県高松市でありました大会、日本獣医師会の学会年次大会で、この動物看護職全国協会というのを発足させましょうという、設立準備会ができました。【スライド 10】そして、このポスター

動物看護職全国協会(仮称)



- 今年2月に設立準備会が発足
- 来年1月に設立総会予定
- 公的資格をも含めた動物看護職に関する法的整備が行なわれていく重要な道筋

【スライド 10】

がもうでき上がっているわけですが、来年1月に岩手県盛岡市で日本獣医師会の学会年次大会というのが開催されますが、その獣医さんの大会の学会の中で、その一コマとして、この動物看護職全国協会というのが設立総会を迎える予定になっています。今、その担当の委員の人、準備会の人たちが一生懸命その準備をさせていただいています。これができると、全国的な協会ができて、それを窓口として国、あるいはいろんなところと折衝をいたしまして、そうして公的資格も含めた動物看護職というものに対する法的な整備がなされていくというふうに期待されています。

日本獣医師会の考え方

- 動物診療技術の高度化、診療提供形態の多様化の要請に対し、動物医療におけるチーム医療の確立を図るため、パラメディカル専門職の国家資格制度を創設する
- 現行の動物看護職については、パラメディカル専門職の基盤となるものとして技術・知識の高位平準化と職域環境の整備を図る

【スライド 11】

実はこのお膳立てをしておりますのが日本獣医師会でありまして、これはそういう香川県の大会をも企画をいたしておりますし、来年の岩手県ももちろんです。それから、つい最近、6月11日には日本の国会議員の先生方の中で、この動物獣医療、こういったものに興味を持って応援をいただいている先生方の会があります。そういう議員連盟がありますが、そこに対しても日本獣医師会からきちんとした公文書で要請をしております。これはちょっと早くで読み上げます。動物診療技術の高度化、診療提供形態の多様化の要請に対し、動物医療におけるチーム医療、ここではチーム医療ということをやっております。の確立を図るため、パラメディカル専門職の国家資格制度を創設。【スライド 11】パラメディカルというのは、パラペットメディカルということで、獣医療と一緒に仕事をする専門職ということ、獣医師以外の獣医療にかかわる専門職。この国家資格制度を創設するということを明言しております。

それから、現行の動物看護職については、今現在既に動物看護職になっている方ですね、この方につきましても技術・知識の高位平準化、それから職域環境の整備を図ると言っております。その根底には先ほど申しました、1人獣医師のみによる対応には限度があると。チーム医療が必要であるということ。それから獣医師の診断治療の介助などや、保健衛生指導などを業として、なりわいとして、職業として、プロとして、有資格者として行うものを期待をしております、

日本獣医師会の考え方

- 一人獣医師のみによる対応には限度がある
- 動物医療の質の確保を通じ信頼の確保を図るためチーム医療体制の整備が必要
- 獣医師の指示の下で行う動物診療に係る臨床検査、放射線照射、理学療法、高度医療機器操作、獣医師の診断・治療の介助などや保健衛生指導などを業として行う者
- 国が試験し、免許を与える

【スライド 12】

期待

- 獣医療関連専門職として認知される
- 動物看護の有資格者として飼い主を指導する
- 獣医師の指示のもとで診療の補助をするほか、自らの判断で主体的に看護を行なう
- それに伴う責任も担うことができる
- 動物とその飼い主の満足度向上をはかる

【スライド 13】

だからこそこういう人たちについては国が試験をし、免許を与えるという考え方をしております。【スライド 12】

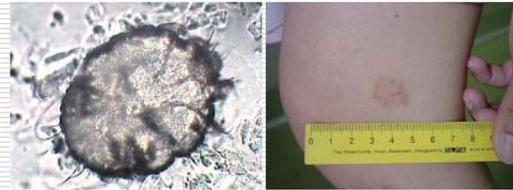
このように、獣医療の関連専門職として皆さん方、動物看護職の人々が社会に認知されるということになります。そして資格を持った人として、その資格を生かした指導、飼い主さんに対する指導、ヒューマン・アニマル・ボンドに基づいた指導、これをしていただけることになります。今までは獣医師の指示のもとで診療の補助をしていただいているわけですが、これも引き続きやっていただきますし、重要な仕事なんです、これに加えて、あくまで加えてですが、みずからの判断で主体的な看護を行っていただける。当然それには責任も伴いますが、その責任を乗り越えて、責任を負った上で、そういう仕事を担っていただきたいと思っています。結果として日本のヒューマン・アニマル・ボンド、これがより一層充実してくるということです。【スライド 13】

それからもう一つ、植村先生の御専門の領域であります、私たち獣医師、あるいは皆さん方動物看護職の人たち、このチームは日本の国に対して公衆衛生上の仕事をする必要があります。

公衆衛生上の中で、私たちにかかわる問題というのは、人と動物に共通する感染症、これは愛玩動物はかわいい、ペットはかわいい、それだけでは済まないで、動物から人に、あるいは人から動物に移る病気、こういったことがあることは

期待

- 人と動物に共通する感染症予防の啓発



【スライド 14】

事実です。このことを私たちは専門職としてきちんと勉強し、理解し、そしてそういうことを余り御存じでない飼い主の皆さん、社会の皆さんにきちんとした正しい知識を啓発して、そしてそういう病気に人がかからないように、動物が、ああ私に病気をうつした憎い動物だといっていわれのない罪に問われないように、それを守っていく責務があります。責務がありますので、先ほどの責任と一緒に、私たちはこのことも一生懸命勉強をしなければなりません。勉強しないと、うそや出任せを言っているはいかんで、こういうこともしっかり勉強していただきたいと思います。看護職の皆さんも、プロとしてこれを勉強していただきます。【スライド 14】

期待 Human Animal Bond

- 多岐にわたる獣医療の一部を専門教育の成果をフルに発揮する信頼できる専門技術職として担う
- 動物を介在した様々な社会貢献に尊敬される社会人として視野と活動域を拡げていく

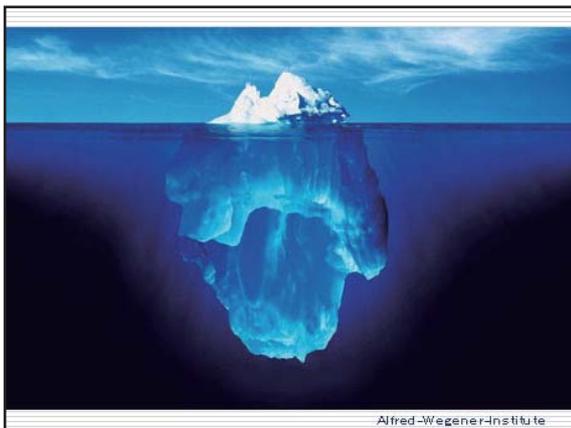
【スライド 15】

そして、今申し上げた勉強した結果、そういうことを専門教育の成果、これをフルに発揮する信頼できる、私たちプロの獣医師から見ても、社会の皆さんから見ても信頼できる専門技術職として獣医療の一部を担っていただきたいと思っておりますし、そのプロフェッショナルな仕事を通じて、私たちの専門分野である動物を介在したさまざまな社会貢献、まさにヒューマン・アニマル・ボンドですが、これをどんどん広めて、人々が幸せになるように、もちろん動物はもっと幸せになるように、こういうことを尊敬される社会人として頑張ってくださいと思っています。【スライド 15】

繰り返しのようことになりますけども、これから皆さん方が習っていく勉強はどんどん難しくなります。専門的になりま

す。それは国家資格ということを目指しているからで、それを大変だと、そんなのは困るなど言う人があるかもしれませんが、でも、そんなに難しいことを要求してるわけではありませんし、こちらの専門学校ももちろんそうでしょうし、これからの社会全体がそういう教育をきちんとするようなシステムに変わっていきます。何よりも一緒に働く私たち獣医師が、皆さん方がいないと困るわけですから、一生懸命その勉強をし、またいろんなことをサポートしていきたいと、このように思っています。

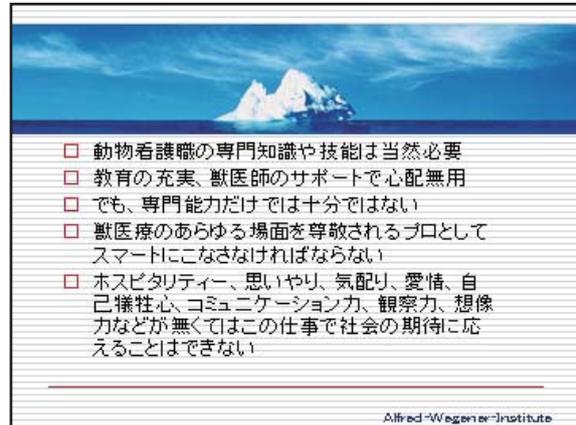
ただ、ここで私たちは若い獣医の皆さんにも言うんですけども、そういう専門的な勉強をしたらそれでいいかというと、決してそうじゃないんですね。やはり皆さん方が小さいときに、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さん、保育所の先生、幼稚園の先生から教わった、小学校1年生、2年生のときの担任の先生から教わった、おはようございますとか、ありがとうございますとか、ごちそうさまですと、そういった基本的なあいさつ、人とけんかをしない、人の悪いことを言わない、それからいろんなことを言えばいっぱいありますが、要するにそういう小さいときに習ったことが、今の日本の教育の中で、皆さん方が小学校、中学校、高校と、だんだんと年数が上がるに従って、まともなことを言うと、何かいい格好してるみたいで、目立っていじめに遭うとか、そういうつまらんことで今の日本の国は、そういうせつかしいことを、皆さんがないんじゃないかと、忘れてじゃなくて、使わずにしまい込んでしまってるんですね。今度はプロとして、職業人として、それを堂々とありがとうございます。それから人のことを悪いことを言わないとか、リーダーシップをとっていくとか、いろんな人とうまく話をする、こういった当たり前のことを当たり前じゃなくて職業として、仕事としてやっていただく、こういうことが重要になってきます。



【スライド 16】

ここに写っているというか、これは絵なんですけども、これは氷山なんですね。プロの仕事というのは、海に浮かぶ氷山の、水から浮かんでいる部分、ここだけを見られて評価をされます。きれいな氷山だとか、高い氷山だとか、いろ

んなことがありますけども、これが専門的な技術の領域と考えるとと思います。しかし、その氷山の下には9倍の部分が水面下に隠れていると言われてます。この上の部分、水に浮かんでいる部分というのは、これは勉強して、我々獣医師も一生懸命やって頑張っていくことができます。ただ、この見えない部分は皆さん方の努力で、しかもこれを職業として一生懸命やっていただくと。【スライド 16、17】



【スライド 17】

先ほどから申し上げていますホスピタリティーだとか、思いやりとか、気配りとか、愛情、自己犠牲心、コミュニケーション力、観察力、想像力、こういったことを言えば切りがないんですけど、これはもっと言えば小学校1年生か2年生の担任の先生に聞いてもらえばわかるかもしれません。おじいちゃん、おばあちゃんに聞いてもらってもわかるかもしれない。お父さん、お母さんに聞いてもらう。そんなことよりも自分たちが思い出せばすぐわかることばかりなので、決して難しいことじゃない。これをプロとしてやっていただきたい。そのことによって私たちと一緒に社会に貢献でき、ヒューマン・アニマル・ボンドを実践していただける、有資格者としての、職業を持った、職業的な、いわゆるプロとしての動物看護職の人たちが社会に活躍していただけると、そのように考えております。

早口で聞きづらかったと思いますけども、また後のディスカッションの時間にもお答えできることはしたいと思います。

ありがとうございました。

○植村座長

玉井先生、どうもありがとうございました。

会場の皆さんいかがでしたでしょうか。獣医療における獣医師から、いわゆる動物看護師の、看護職の皆さんに対する仕事が、どんなに大切かということが御理解いただけたかと思います。また、獣医師会といたしましても、動物看護職に対する強い期待と、それから期待だけではなくて、やはり責任を持った参加をみておられるということが御理解いただけたかと思います。

玉井先生のお話を聞いて、むしろ何かわからんことの方

が多かったような気も若干いたします。例えば、動物看護師の数が全国で8,000名から2万名という、極めて幅の広い数字が出ておりましたけども、そういうところもまだ整備されていないというような問題も抱えているかと思います。皆さん方には、多分、聞きたい質問等が多数あると思いますけども、これは第2部のディスカッションの中で承りますので、次に進めていきたいと思えます。

次は、これは動物看護師という名前で師はこれではこの師ですね。崎山法子先生でございます。

崎山先生は多分もう皆さん方はお名前も聞いておられるし、いわゆる動物看護職の日本におけるリーダーの1人でおられまして、動物病院の経営にも携わっておられ、さらに主任動物看護師という、看護師を取りまとめる役割もされております。経験も、この世界では、失礼ですけども長いように聞いておるんですけども、入ると思えます。したがって、いろんな現場における動物介護、介護士の勉強、あるいは問題等を整理して御紹介賜りたいと思えます。

崎山先生、よろしくお願ひいたします

動物看護師のこれから ～一次医療の現場より～

崎山 法子

王子動物病院 取締役 動物看護主任



今御紹介にあずかりました、株式会社エムティエム王寺動物病院取締役動物看護師の崎山と申します。よろしくお願ひします。

それでは始めさせていただきます。

動物看護師の始まり

- ▶ 動物医療の発展とともに、
”動物を看護する専門技術者”
として生まれた

王寺動物病院

【スライド 1】

動物看護師は動物を看護する専門技術者として獣医療の発展とともに生まれました。昔、看護という名前もついていないころの看護師の仕事は、出産した人のお世話をするところから始まりました。その後、人の看護師は、そこからさまざまな課程や歴史を経て、今の地位、立場になりました。動物看護師である私たちの仕事についても同じではないでしょうか。また私たちの今行っている仕事内容は、指示、指令を受けて規定の業務を行う、人で言う准看護師の仕事内容に当たると考えられています。【スライド 1】

動物看護師の勤務状況は、なかなか厳しい一面もあります。少し古い資料ですが、1999年のMVMのアンケート調査で、獣医師が考える看護師によると、小動物診療施設のほとんどで動物看護師は雇用されています。年齢は二十歳をピークとして、二十歳から27歳で77%を占めておりました。勤務年数は6年以降から減少するようです。1日の労働時間は8時間が55%ですが、9から11時間は24%もあり、また全体の24%で残業手当が支払われていません。このアンケート調査では取り上げられていませんが、非正規雇用の問題がありますし、正規雇用であっても雇用保険、健康保険、労災保険、年金など各種社会保険をきっちり掛けてもらっている割合は、残念ながら余り高くないのではないのでしょうか。また、朝と夜の診療時間だけ勤務して、勤務時間8時間という例もあるように聞いています。その間の時間は勤務時間に入れてもらえませんが、完全に拘束時間であることに

動物看護師の主な勤務状態

MVMアンケート調査(1999)

- ▶ 小動物診療施設のほとんどで雇用されている
- ▶ 年齢は20～27歳が最も多い(77%)
- ▶ 経験年数は1～5年が多い(72%)
- ▶ 勤務時間は7～10時間(83%)
- ▶ 週休2日(43%)
週休1日または隔週2日(50%)
- ▶ 初任給12万～16万程度(全体の65%)

王寺動物病院

【スライド 2】

動物看護師の仕事内容

MVMアンケート調査(1999)

- | | |
|-------------|--------------|
| ▶ 受付(59) | ▶ 手術準備(12) |
| ▶ 清掃(42) | ▶ 事務(14) |
| ▶ 診療補助(38) | ▶ 会計(9) |
| ▶ 入院の世話(39) | ▶ 雑務(10) |
| ▶ 検査(31) | ▶ 在庫管理(8) |
| ▶ 手術助手(34) | ▶ トリミング(9) |
| ▶ 保定(29) | ▶ 飼い主への対応(8) |
| ▶ 調剤(15) | ▶ 犬舎の管理(7) |
| ▶ 看護(14) | ▶ 麻酔(5) |
| ▶ 全て(15) | ▶ 電話対応(5) |
| | ▶ 滅菌(5) |

王寺動物病院

【スライド 3】

間違いはありません。

まとめると、キャリアの少ない若い動物看護師が長時間低い労働条件で勤務しているのが実態ではないのでしょうか。

【スライド 2】

MVMのアンケート調査では、動物看護師の具体的な仕事として、受付、清掃、診療補助、入院の世話などが上位を占めていました。驚いたことに看護が第9位です。第4位の入院の世話との区別がはっきりしませんが、看護という仕事に対する獣医師の意識の低さをあらわしているように思えてなりません。また、高い技術を要求されている仕事が入っていないことに注目していただきたいと思います。それから、受付や会計、院内清掃が最も多いのは、私たち動物看護師はいまだにお手伝いとか見られていないからなのか、私たちのレベルが獣医療の要求に達していないからなのか考える必要がありますが、恐らくどちらも正解なのだと思います。【スライド 3】

動物看護師の近況としては、皆さん御存じのとおりです。

動物看護師の近況

- ▶ 動物看護師のニーズも人口も、年々増加傾向にある
- ▶ 動物看護師には専門的な知識や一般常識が必要とされている
- ▶ 動物看護師の国家資格化にむけて、動きが活発化しつつある

三寺動物病院

【スライド 4】

いっときほどの激しさはないものの、ペットブームに乗り、動物関連の需要はまだまだ伸び続けています。また、ここ最近の新しい動きとしては、先ほどもありましたように、動物看護師を国家資格化しようという動きが活発になってきました。国家資格化になるまでの道のりは、諸問題が多過ぎて困難をきわめることでしょう。しかし、新しい動きが出たのは大変喜ばしいことです。今、各団体が協力して国家資格化実現に向けての実行委員会も設置されました。これは一つのチャンスがめぐってきたのかもしれない。【スライド 4】

動物看護師の仕事 まとめ



三寺動物病院

【スライド 5】

ここまでの動物看護師の仕事をまとめると、動物看護師は病院内において多岐にわたる仕事をこなしています。しかし、専門技術者でありながら、その内容は受付業務や清掃、あるいは簡単な検査と専門性の低い仕事で終わっていると感じられます。動物看護師のあり方について、地位向上や待遇改善を唱えられてはいますが、現状としては昔から余り変化がないのではないのでしょうか。【スライド 5】

では、本題に入りましょう。

私の友人の中にとっても有能な動物看護師がいます。以前、彼女たちと電話でこんな話をしました。「これからの動物看護師は自分の仕事に誇りを持って、もっと前に出て活躍して、それに見合ったお給料をもらって、そんなことの積み重ねが認められたら、いずれは国家資格化になるだろうし、この仕事をこれからもやりがいを持ってずっと続けられる

エピソード



三寺動物病院

【スライド 6】

よね」と話すと、友人は不可解そうに、「え、何を躍起になってるの。そんな気持ちがわからない。今のままでいいじゃない。目の前の動物たちに触れ、毎日楽しく仕事ができているんだから。そんなのに全然興味がない」と言われてしまいました。すごくショックだったのを鮮明に覚えています。同じ看護師をしていて、私より有能な彼女たちが口をそろえてそう言うのです。彼女たちの言うことに、私はどうも納得がいきません。【スライド 6】

これからの動物看護師を考える

私達はこれからどうしたらいいのでしょうか？
どう進めばいいのでしょうか？

今のままでいいですか？
今のままで仕事を続けられますか？

三寺動物病院

【スライド 7】

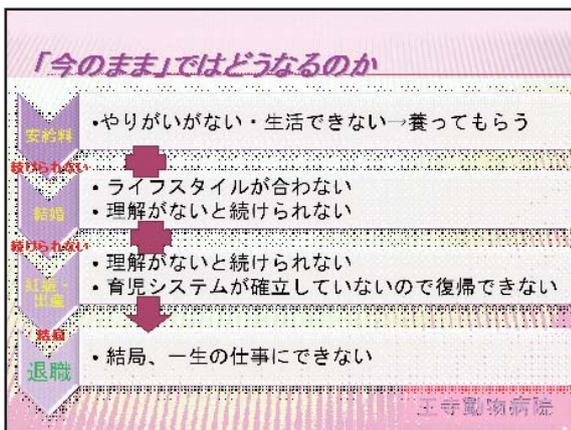
これまで動物看護師のこれからを考えましょうというシンポジウムやセミナーが多々ありました。そのいずれもこんな問題があります、考えましょうで終わっています。いつまでも同じ議論をしていても何も変わりません。このシンポジウムのお話をいただいて、今までと同じテーマでお話をさせていただいていいものか、正直行き詰まりました。抄録やテーマから少し外れてしまうかもしれませんが、大切なことなので1歩踏み込んだ提案をさせていただこうと思います。【スライド 7】

今からお話しする内容は、もしかしたら現職の皆さん、動物看護師を志している皆さんにとってはショッキングな内容かもしれませんが。また獣医師の先生方にとってもとんでもなく失礼な話になるかもしれません。私たちの存在をつくったのは獣医療であり、指導してくださりここまでの存在になれたのも先生方のおかげです。その先生方にこの仕事につかせてもらったこと、ここまで導いてくださったことに私は感謝し



【スライド 8】

ております。その先生方と敵対しようと思っているわけではありません。そのあたりを御理解いただければと思います。そして、お互いプロとして立場を尊重したパートナーシップができればと考えています。私たちをパートナーとして見ていただきたい、その結果仕事を分担し、よりよい獣医療を行いたい、そう思っているのです。【スライド 8】



【スライド 9】

では、先ほどの私の友人たちの話からきっかけをもらい、話を進めていこうと思います。逆の発想で、今のままではどうなるか考えてみていきたいと思っています。【スライド 9】

結論から言いますと、一生の仕事としては続けられません。まず、ライフスタイルから見ましょう。今のお給料は安いんですよね。当たり前です。何の責任もなく、専門性の低い雑務だけをこなしていれば問題ないのでから妥当でしょう。それ以上の額を要求すること自体、むちゃな願いです。

この仕事を生涯の仕事と仮定して、例えば男性、今のお給料で家族を養っていけると思いませんか。女性、だれかに養ってもらおう考えは一たん置いておくとして、将来1人で生計を立てていけるのでしょうか。難しそうです。今のままならほかの仕事を探さなくてはなりませんね。

次に結婚したとしましょう。勤務時間や残業の問題があり、旦那様や家族の理解がないと働けない。あなたがせっかく

積み上げた実績を結婚で無駄にしますか。また、養ってもらうために結婚しますか。そのために仕事をあきらめますか。

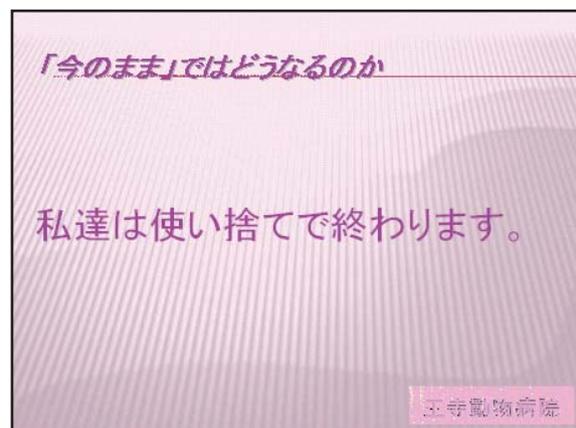
また、MVM調査では、結婚退職をしても問題ない、仕方ないと思う雇い主が半数以上を占めていました。獣医師の半数が動物看護師が結婚後もキャリアを積んで仕事をしていくことを希望していないし、期待もしていないことになります。

順調にここまで経たとして、妊娠、出産を控えたあなたを勤めている病院や、これから勤めようという病院のシステムは受け入れてくれますか。出産、育児休暇の制度がない病院も多いでしょう。

MVMのアンケート調査の家事育児と動物看護師の仕事は両立できるかという質問では、できないが50%を占めていました。内容は勤務時間や人件費、人材の余裕などさまざまな理由がありました。また、できるという回答が35%ありましたが、大きなシステムの整った病院なら可能だとか、やればできるなど主観的、またシステムが整っていないことには現状無理な状態のように感じられます。要するに、専門性の低い仕事ですから、妊娠出産の復職を待つより、新規雇用の方が安上がりで簡単です。

以上はこの業界に限らないかもしれませんが。しかし将来皆さんが突き当たる壁であることは間違いありません。いかがですか。結局どこかであきらめなくてはならないと感じないでしょうか。

私は動物看護師でありながら、経営者であります。その観点で専門性の低い仕事に限れば経営的論理から見ても、獣医師を1人雇うより、動物看護師を2人雇って、3カ月もすれば質は別として診療補助ができて受付業務ができて、お片づけができるようになってもらえるのですから、人件費は圧倒的に安上がりです。また、回転早く若い子だけを使っている方が断然お得です。動物看護師に長く勤めていただく必要はありません。若くて経験が浅くてお給料が安くて、ある程度の年数でやめてくれという状況が経営者の暗黙の了解として存在していれば、動物看護師を一生の仕事として考えられないと思います。その点から言っても、私たちは



【スライド 10】

使い捨てにならないためには？

動物看護師の仕事にプライドを持って、
一生の仕事としていくためには

なくてはならない存在になること

突然いなくなると替わりがいない
存在になる必要があります

三寺動物病院

【スライド 11】

使い捨てなんです。【スライド 10】

では、使い捨てにならないためにはどうしたらよいのでしょうか。動物病院にとっても、獣医師にとっても、飼い主にとってもなくてはならない存在になることです。私たちが突然いなくなれば困る、あなたがやめたら困るという状況にすればいいのです。【スライド 11】

なくてはならない存在になるためには

- 専門性
- 自分たちの仕事を「守る」こと

三寺動物病院

【スライド 12】

さらに具体的に考えていきましょう。それは専門性を持つことと、自分たちの仕事を守ることだと思います。MVMアンケート調査で動物看護師の将来について、どのように変化するかという質問では、仕事内容はより専門的に変化するという答えが63%ありましたが、実際、その流れはまだまだ不十分に感じます。このままでは先ほど述べたせいかくのチャンスが回ってきている国家資格化も夢のまた夢に終わってしまいます。国家資格化するには、必ず専門性が必要になるからです。高い技術と専門性に裏づけられた国家資格化でないと、動物看護師の待遇改善はあり得ません。【スライド 12】

私たちは日本で動物看護師と呼ばれていますが、海外ではVTともANTともAHTとも呼ばれています。Tはテクニシャンという意味です。私たちは技術者でもあるのです。動物看護師と呼ばれるのですから、看護は基本として、ここでは技術者の専門性について話を進めていきたいと思いま

専門性

- 看護
- 技術者
 - 麻酔管理
 - 血液検査、尿検査など、各種検査
 - 内視鏡検査
 - 超音波検査
 - 手術助手
 - レントゲン検査

三寺動物病院

【スライド 13】

人医療の役割分担(例)

看護師	各種技術者	医師	薬剤師
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外来診療の補助 ・ 病棟看護 ・ 手術補助 	<ul style="list-style-type: none"> ・ レントゲン撮影 ・ 超音波検査 ・ 眼科検査 ・ BT ・ UT ・ 各種機能検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診断 ・ 手術 ・ 処方 ・ 治療計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 薬剤管理 ・ 処方 ・ 医師の処方をチェック

三寺動物病院

【スライド 14】

す。【スライド 13】

角度を変えて見ていきます。これは人の医療の役割分担の簡単な例を大ざっぱに示したものです。実際はもっともつと複雑で、獣医療に比べて格段に厚みがあります。法律的には細かい部分で間違いがあるかもしれませんが、時間がなくてそこまで調べられませんでした。御容赦いただきたいと思います。【スライド 14】

人医療の役割分担を踏まえて、獣医療の仕事を整理してみましょう。獣医療では各種の検査技師、薬剤師はいません。獣医療の範囲の大きさを考えると、今後もそれは変わらないと思われます。唯一考えられるのは獣医師、動物看護師以外に専任の受付、レセプションistでしょうか。動

獣医療の役割分担(例)

動物看護師	動物看護師？ 獣医師？	獣医師
<ul style="list-style-type: none"> ・ 受付 ・ カルテ管理 ・ 顧客管理 ・ 外来診療補助 ・ 入院動物看護 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 麻酔 ・ 麻酔管理 ・ BT ・ UT ・ FT ・ 眼科検査 ・ 内視鏡検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診断 ・ 執刀 ・ 処方 ・ 治療計画

三寺動物病院

【スライド 15】

物看護師が行っている受付、カルテ管理、顧客管理を担ってくれるかもしれません。

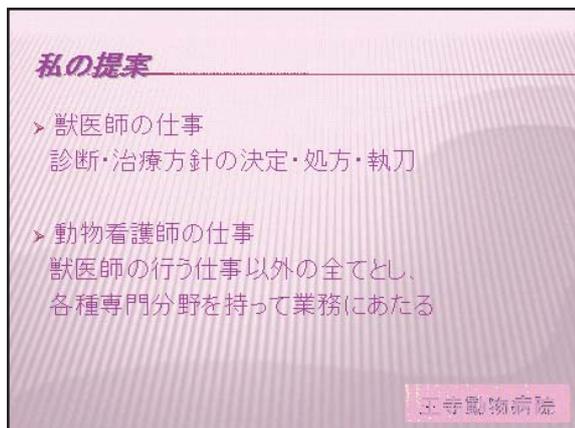
それでは、各種検査や処置は現在だれが行っているのかと考えると、簡単な検査は動物看護師、高い技術と知識の必要な検査や処置は獣医師という構図が見えてきます。【スライド 15】



動物看護師	獣医師
・受付 ・カルテ管理 ・顧客管理 ・外来診療補助 ・入院動物看護	・レントゲン撮影 ・麻酔 ・麻酔管理 ・B超 ・MRI ・CT ・眼科検査 ・内視鏡検査
	・診断 ・執刀 ・処方 ・治療計画

【スライド 16】

私たちの職域を、診断を伴わない検査や処置というところまで拡大してはどうでしょうか。このスライドの例では、造影を含むレントゲン撮影や、麻酔や麻酔管理、さらにはルーティーンの眼科検査や内視鏡検査も含めることができるかもしれません。人の医療では、眼底検査や心エコー検査も専門技術者が行っている場合がありますが、検査法の標準化が進まないと、獣医療ではまだまだ現実的ではないと思います。【スライド 16】

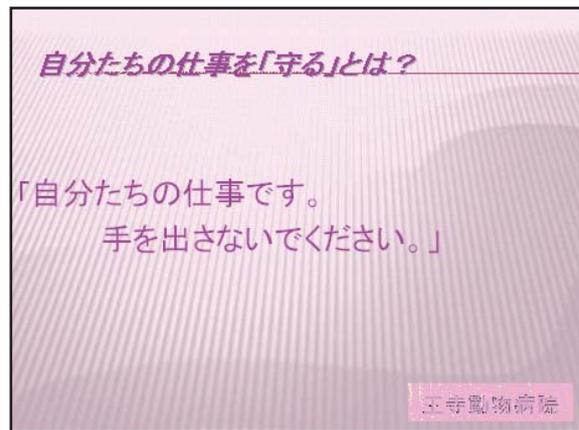


私の提案
➢ 獣医師の仕事 診断・治療方針の決定・処方・執刀
➢ 動物看護師の仕事 獣医師の行う仕事以外の全てとし、 各種専門分野を持って業務にあたる

【スライド 17】

以上を踏まえ、診断、執刀、処方、治療計画を獣医師の仕事、動物看護師の仕事は獣医師の行う仕事以外のすべてとし、各種専門分野を持って業務に当たると、業務を分担することを提案したいと思います。【スライド 17】

そして大事なことです。自分たちの任された分野は、獣医師を頼らないことです。自分たちの仕事を守ることは、責任を負うということです。その責任を負う覚悟はありますか。症例が亡くなったとき、亡くなった責任を心のどこかで獣医



【スライド 18】

師に押しつけてないでしょうか。そこには動物看護師がたくさんかかわっているはずなのに、自分たちの分野と決めた仕事について、獣医師に頼ってはいませんか。失敗したら先生お願いしますと言っていないませんか。失敗したことを仕方がない、当たり前だからと思っていないでしょうか。それではいつまでたっても守ることなんてできません。自分にプライドを持って胸を張って「私の仕事です、手を出さないでください」と言いたいじゃありませんか。そうすることで獣医療を獣医師とともに対等に担うことができるのではないのでしょうか。

【スライド 18】



【スライド 19】

しかし、そこにはさまざまな葛藤があります。獣医師と動物看護師の仕事の領域の葛藤です。ほとんどの獣医師はドリップを入れることや、食事の介助をすることや、電話に出ることなども仕事の一部だと考えているかもしれません。私が先ほど提案させていただいた役割分担を現実のものとするためには、獣医師の意識改革も必要だと思います。また、複数の獣医師が勤務している病院では、院長の指導力と動物看護師に任せるという決断が必要ではないのでしょうか。【スライド 19】

うちの病院の話です。ある獣医師が電話をとったり、入院動物の食事介助をしたりと、さまざまなことを行っていました。それを見ていた動物看護師が「私たちの仕事をとらな

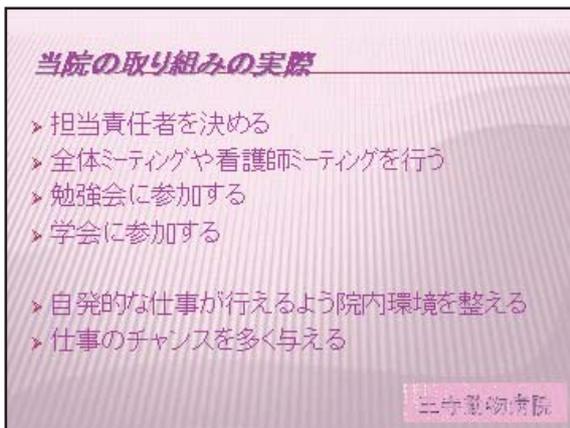
いで」と言ったのです。獣医師は何でいけないの、そういうなら私が気づいて行動する前に、あなたがやればいいじゃないと思ったそうです。

また、動物看護師が診療補助に入っているとき、スムーズな診療が行えるように準備を万全にしていると、先に準備をされていると、どちらが診察しているのか主導権がどちらにあるのかわからなくなるといった発言を耳にしたこともあります。理想の看護師は「はい」と言って何でも言うことを聞いてくれる看護師がいいなという獣医師の本音が見えます。

これらはまさに葛藤ではないでしょうか。なぜそのような葛藤が生まれるのでしょうか。意識改革が必要な例は、獣医師、動物看護師双方とも数え上げればきりがありません。獣医師と看護師では仕事の領域があいまいで、そのあいまいさから不協和音が生じ、動物や飼い主に不利益が生じる可能性があります。そんな葛藤がここ何年来と続いているのが現状です。



【スライド 20】



【スライド 21】

何度も言いますが、ここでは看護は基本業務として別に置いておきます。当院ではそんな問題を抱えながらも少しずつ改革に取り組んでいます。レントゲン検査などは動物看護師だけで撮影します。また、撮影した画像もチェックし、ローテーションがないか、撮影部位のポジショニングは正しかったかのチェックを行います。もちろん、最悪の場合撮影

のやり直しもします。血管確保や気道挿管は獣医師の指導のもと、動物看護師が行います。そして歯石除去も動物看護師が行うことに前進しました。【スライド 20】

先ほどお伝えした以外にも、院内全体で取り組むことと。院長や動物看護師主任、師長が忘れてはならない、そして実行していかななくてはならない取り組みです。【スライド 21】

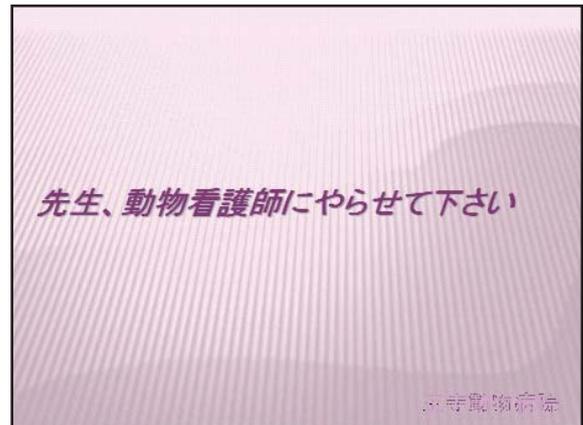


【スライド 22】

以前、院長からこんな話を聞いたことがあります。

今から約 24 年前、著名な整形外科医のドクターレイトンが、骨折の創外固定法の講演と実習のために来日されました。これはそのときに同行してきたテクニシャンの仕事内容です。講義室で日本の獣医師たちが約 2 時間の講義を受けている間に、そのテクニシャンは 6 頭の犬に血管確保、気道確保をしてガス麻酔を施し、手術台のそばには必要なすべての手術器具が整然と並べられてあったそうです。2 時間の間にたった 1 人でそれだけの仕事を完ぺきに行ったのです。もちろん後片づけも完ぺきだったそうです。この話を聞いて、このテクニシャンのように仕事ができたら、この仕事にどれだけ誇りを持てるだろう。また、どれほどの知識の裏づけと責任を持ってその仕事に当たったのだろうと感銘を受けました。【スライド 22】

皆さんにはこの言葉を院長先生に、獣医師に言ってほしいのです。学生の皆さんはこの言葉を発することができるようになってほしいのです。この言葉には大きな責任がありま



【スライド 23】

す。失敗は許されません。与えられたチャンスは確実に自分のものにしなくてはなりません。十分な知識の裏づけと経験が必要とされます。【スライド 23】

例えば、獣医師からこの症例には血液検査と尿検査、輸血が必要だという指示を受けて、あなたは検査項目、採血部位、採尿方法の確認を行い、1人で、ないし仲間の動物看護師の手を借りて採血、採尿を行います。そして血液型を判定し、供血動物の確保、準備を行います。その間、獣医師は飼い主に経過や結果を説明したり、ほかの患者を診察したり、あるいは治療計画を練り上げるということができます。あなたはこの言葉を発するためにどんな準備をしますか。



【スライド 24】

今回の講演で、私が大胆に提案したことは、余りに身のほど知らずな内容であるかもしれません。今までの堂々めぐりから1歩進んだ議論のためのたたき台にでもしていただければ幸いです。現在、動物看護師の雇用動向がどのように推移しているか把握する直接的なデータがありません。今後は動物看護師みずからが実態調査を企画し、得られたデータをもとに、その存在を社会にアピールしていく気概が必要です。【スライド 24】

私見ですが、この発表を通じて、やはり動物看護師は一生勉強、自己研鑽の必要な職業だと改めて考えさせられたとともに、自分自身の日々の業務の見直しや、獣医師とのかかわり、これからの動物看護師の動向を、どのように受けとめ、またどのように参画するかを考えるのに大変勉強になりました。この機会を与えていただいた関係者の皆様、協力していただいた皆様にお礼を申し上げます。参考資料です。

たび重なる失礼な発言や、過激な発言をしてしまいましたが、どうかお許しください。最後まで御清聴いただきありがとうございました。

【参考資料】

- ・ JOURNAL OF MODERN VETERINARY MEDICINE No.47
- ・ ペットのお仕事「動物看護師」 著者 岩井満理 誠文堂新光社
- ・ 動物看護学 総論／各論 日本動物看護学会編 日本動物看護学会
- ・ 獣医看護学 上巻／下巻 監訳 山村穂積 チクサン出版社
- ・ 小動物看護用語学辞典 監修 大石勇 インターズー
- ・ 動物病院スタッフのトレーニングマニュアル 訳 奏貞子 監訳 斉藤久美子 メディカルサイエンス社（株）制作 インターズー（株）販売

○植村座長

崎山先生、どうもありがとうございました。

大変、本当に実態、率直な御紹介があったと思います。動物介護職は使い捨てで終わりですというところからスタートして、このようなリーダーを我々が持ったことを、大変喜ばしいことだと思います。また後の総合討論の中で、この話の中身についてはさらに突き詰めて皆さんに御意見を賜りたいと思います。

崎山先生、どうもありがとうございました。

それでは、また同じように動物看護職を長年の経験を持ってこられております富永良子先生からお話を伺いたと思います。また違った観点から介護職の現状を、御紹介をしていただきます。

動物看護師の役割

富永良子

ネオ・ベッツ VR センター 動物看護師長



植村先生、御紹介いただきありがとうございます。それでは始めさせていただきます。

私は大阪市内にありますネオ・ベッツVRセンターというところで動物看護師をしております富永良子と申します。発表の中で、動物看護師のことを私はVTと表現させていただきます。私の発表は院内での仕事内容や、動物看護師として私がやってきた看護観などが主なお話になります。それではよろしく願いいたします。

病院紹介

- ホームドクターからの紹介を受ける病院
- VR = **V**eterinary: **獣**医
Referral: **紹**介
- 144名の株主(獣医師)



【スライド 1】

私が勤務するネオ・ベッツVRセンターというのは、2005年の10月に開院したホームドクターからの紹介症例の診療を受ける、二次診療の統括病院です。VRというのはベテリナリー・リファラルの略で、獣医紹介という意味です。当院は144名の開業獣医師が出資してできた動物病院であるために、いろいろな方が出入りをされています。特に他院で勤務する獣医さんも来院されるので、コミュニケーションを学ぶ場としても役に立っています。また、夜は夜間救急の動物病院として診療を行っています。【スライド 1】

診療システム

- 主治医の獣医師から予約
- ↓
- 患者動物の診療実施
- ↓
- 依頼診療終了後は主治医に戻ってもらう

【スライド 2】

病院紹介

- 画像診断、脳神経外科、
整形外科、眼科、
軟部外科、内科



【スライド 3】

当院の診療のシステムは、まずかかりつけの動物病院の先生から当院に予約を入れていただきます。予約の方法はインターネットかファックスでお願いをしております。そして先生が患者の動物を連れて来院される場合と、飼い主さん自身が連れて来院される場合がありますが、ほとんどは飼い主さんが来院されております。そして主治医さんからの依頼の診療が終わりましたら、また主治医の病院のもとへ戻っていただくという連携をつくって診療に当たっています。

当院は画像診断、脳神経外科、整形外科、眼科、軟部外科、内科を中心とした診療を行っています。【スライド 2, 3】

年平均件数

- 診察・・・8000件
- 手術・・・1000件
- CT・・・800件
- MRI・・・1000件
- 内視鏡等 200件
- つまり・・・
 - 麻酔下検査3000件



【スライド 4】

年平均の件数は、診察が8,000件、手術が1,000件、CTは800件、MRI検査は1,000件、内視鏡検査は200件。つまり麻酔科における検査というのは、年間3,000件に当たります。こちらは1日当たりで換算すると診察は22件、手術は3件、CTは2件、MRI検査は3件となります。診察件数

22件というのは、通常の動物病院に比べると少ないのですが、その中でも麻酔が必要な診察は1日8件となり、約3割を占めています。【スライド4】

主な仕事内容

- 診察補助
- 各種検査補助
 - 麻酔補助
- 手術補助
- 入院看護
- 在庫管理
- 掃除 など



【スライド5】

私たちVTの主な仕事は、診察補助、各種検査補助、手術補助、入院看護、在庫管理、掃除などがあります。受付は事務のスタッフにほぼ任せていますが、不在の場合はVTも行っています。【スライド5】

当院ならではの業務としては、ホームドクターからの診療予約を受けるということがあります。当院は完全予約制なのでVTは1日の診療予約に合わせた勤務シフトに従って業務に当たっています。手術、CT、MRI検査が予約の大半を占めていますので、麻酔管理というのは重要業務の一つです。

診察補助



【スライド6】

各種検査補助(臨床検査)



【スライド7】

各種検査補助(CT・MRIなど)



【スライド8】

診察の補助を行っているところです。【スライド6】

これは臨床検査を行っています。臨床検査では、血液検査、尿検査、便検査などを行います。【スライド7】

CTやMRI検査の撮影のときも獣医師の補助をしています。【スライド8】

手術の前は、各手術の担当のVTが麻酔をかける準備や手術室の準備を行います。挿管、毛刈り、消毒の準備、患者の大きさに合わせて麻酔器の蛇管や呼吸バックの選択など、あとは手術室の室温の調整などを行います。心電図などのモニターの機械、手術に必要な消耗品や機器の準備などを行います。【スライド9】手術の際には麻酔導入の

手術準備



【スライド9】

麻酔管理



【スライド10】

手術中のモニター



【スライド 11】

器具の洗浄・片付け



【スライド 12】

補助、手術中の生体モニター、及び術後のバイタルチェックなどを行います。

こちらが実際に手術中に見ている場面です。【スライド 10】心電図や血液中の酸素濃度、血圧、体温などをモニターしています。【スライド 11】

手術の後は獣医師が使用した器具の洗浄や片づけを行います。この写真は手術の準備室にある器具を収納している棚です。とても器具が多いので、種類別に分けてかごに入れています。【スライド 12】

当院の現状

- 手術器具紛失
↓
写真付ファイルで
分かりやすく
- 機材の故障
↓
講習会の開催

↓これを見ながら片付ける



【スライド 13】

院内での問題点として、手術器具の紛失や機材の故障などがありました。手術器具の紛失に対しては、慣れていな

いスタッフでもわかりやすいように、収納場所別に手術器具の写真をファイルにとじ、毎回片づける際は、それを見ながら行います。【スライド 13】また、責任の所在を明確にするために、担当した者の名前を記入するノートを作成しました。機材の故障に対しては、院内講習会を開催し、取り扱い方法や注意事項などを説明する機会を設けたりしています。

入院看護



【スライド 14】

次は、入院の看護についてお話をいたします。入院看護の中では、ケージのお掃除や、食事、散歩などを行い、朝夕の身体検査では体重、体温、心拍数、粘膜の色、血圧などのバイタルチェックを行います。獣医師の治療計画に基づく指示のもと、投薬や処置を看護師が行います。【スライド 14】

お散歩



【スライド 15】

入院看護の中で私が一番好きなのは、お散歩です。入院室から外へ出て、太陽の日を浴びると、とても気持ちがよさそうで、緊張が解け、よい表情が見られます。仲よくなる一番の近道のようにも思いますし、患者の自然治癒力も上がるように感じます。【スライド 15】

看護の工夫を一つ御紹介いたします。この子は脳腫瘍の患者さんで、プルート君と言います。プルート君は自宅ではいつもほかの敷物で寝ていたようでした。通常、ケージの中にはバスタオルを1枚敷いているのですが、プルート君はそれが気に入らないようで、前足で床を掘ってぐちゃぐちゃ

看護の工夫



【スライド 16】

にしていました。ふかふかのぐあいが入りにくいのかと思ひ、病院にある一番ふかふかの分厚いクッションを入れてみると、すっと上に乗れ、落ち着いてくつろいでくれました。このように患者の訴えに耳を傾け、答えを探す努力をすることもVTの役割です。答えが正解だったときは、ものすごくうれしいものです。【スライド 16】

入院管理

- SOAP形式による看護記録

- S:主観データ
- O:客観データ
- A:アセスメント
- P:具体的な看護プラン



【スライド 17】

そして、入院管理の仕事の一つとして、看護記録をつけています。次にもっと良い看護を提供できるように、まずは記録を残すことだと思います。獣医師がカルテを書くのに使用しているSOAP形式を使っていますが、何がSで何がOか理解がなかなか難しく、とまどいながら書いています。まだまだ感想文のようなところもあって、未熟な看護記録なんですけど、少しずついいものになっています。みんな忙しい中、何とか記録に残そうと必死でやっています。目標は、獣医師が見ようと思うような意味のあるものにすることです。【スライド 17】

看護師長としての私の仕事は、ほかのVTの経験や能力を考慮しての仕事分担、VTの出勤シフトの決定、院内で行う獣医師や事務局との打ち合わせ会議への出席、VT会議の開催、後輩VTの考課、新人VTの育成プログラムの構築とブログの作成などがあります。壁にぶつかることも多いんですけども、試行錯誤しながらやっている状態です。【ス

看護師長としての仕事

- 仕事分担
- VTの勤務シフト決定
- 獣医師や事務局との打ち合わせ
- VT会議の開催
- 後輩VTの考課
- 新人VTの育成プログラムの構築
- ブログ作成

【スライド 18】

当院の現状

- 紹介診療
- 健康な患者の来院はない
- 来院患者の約3割が麻酔をかける

ひなたぼっこ最高?



【スライド 19】

スライド 18】

当院は獣医師からの紹介を受ける施設であるため、健康な患者の来院や、ワクチンなどの予防はありません。26室ある入院室は、ほぼ満室に近い状態で、重症度が高く、いつ亡くなってもおかしくないため、24時間心電図をつけている患者もいます。【スライド 19】

元気に退院してくれることほどうれしいことはなく、やりがいを感じますが、治療のまいなく亡くなってしまふ患者も少なくないため、精神的なストレスは多いと感じています。

日常的に麻酔をかけることも多く、来院患者の約3割が麻酔をかけます。それは何らかの問題を抱えた患者への麻

自身の変化

- VT10年目
- 身だしなみを重要視するようになった
↓
オーナーの安心感につながる!



【スライド 20】

酔管理ということで、特に気が抜けません。

私自身の変化と看護観についてですが、私はVTになり、ことして10年目になります。専門学校を卒業後、鶴見緑地動物病院というところに入社し、病院の形態が変化していき、現在に至ります。年数がたつにつれて、私自身の仕事に対する意識も変化していきました。特に身だしなみに対する意識は大きく変化したと思います。例えば髪の毛の色や化粧品に気を遣ったり、仕事中には必ず髪の毛をくるなど、来院される方にとって、どのような見た目が安心感を与えるかなどを考えられるようになりました。そして、今ではそれが自分の自信や満足につながっています。【スライド 20】

動物看護についての思い

- ララちゃんのご家族との出会い
口の中から出たフード
↓
- ペットロスを経験した要因の1つ
- 「とてもショックなこと」
- 自宅では毎日歯磨きをしていた



【スライド 21】

現在の私の看護観やこだわりのきっかけになっているのは、VT5年目のときに担当した患者さんと、その御家族とのことがあります。患者さんはララちゃんという10歳のゴールデンレトリバーの女の子でした。【スライド 21】ララちゃんは脾臓腫瘍と脳腫瘍の疾患を持つ患者さんでした。御家族は40代後半の御夫婦で、お子さんがいらっしゃらないお二人にとってララちゃん存在はとても大きなものでした。ララちゃんの状態は余りよくなく、ほとんど寝たきりに近い状態でした。診療が忙しいある日の面会のとき、寝起きのララちゃんの口の中から、よだれと一緒に食べた缶詰のフードが出てきたことがありました。食事の後には口をきれいにふいて、面会の前には必ず再チェックをしていたつもりでした。面会に来られたときは、御家族とできる限りお話し、コミュニケーションもとれていたと思います。しかし、ララちゃんの口の中からフードが出てきたことは、御家族にとってとてもショックなことだったと、ララちゃんが亡くなった後に教えてくださいました。自宅では毎日歯磨きをするなど清潔に保とうと努められていたため、後悔としてペットロスを重くした要因の一つになってしまいました。

ララちゃんの御家族とのかかわりで私が学んだことは、御家族にとって、そのとき目にするものがすべてで、忙しいなどは理由にならないということでした。自分が考える満足は、御家族にとっては不十分なこともあり、神経質なくらいに意

徹底した看護の必要性

- ケージ内が清潔か
ケージ内、敷物、食器など
- 身体が清潔か
目ヤニ、口の周り、肛門周辺など



【スライド 22】

識しても、御家族にとって過剰になることはないのではないかと思います。現在は多少お待たせしてでも、できるだけきれいな状態で面会してもらうように努めています。後々残る印象は、できるだけいいものにするようにすることだと思います。【スライド 22】

看護で自然治癒力をUP!

- 看護はマニュアル通りでは不十分
→感じたことを実施
- 患者さんの治癒力UPのために何でもやってみる
- 「手当て」の気持ち



【スライド 23】

看護はマニュアルどおりでは不十分だと思います。ここ数年で飼い主にとって動物は、今まで以上に家族の一員になっています。今後はより細やかな看護が求められ、独自の方向を模索していく必要があります。自分が感じたことはどんどん実践してみることが、患者さんの自然治癒力アップにつながり、看護の楽しさを感じることができると思います。

【スライド 23】

そのために私はナイチンゲールの手当の気持ちを大切にしています。道具がなくても傷むところに手を当ててさすってあげることにはできる。この気持ちはすばらしいと思います。私は結局のところ獣医師、VTともに、患者の元気になるという力をサポートすることしかできないと思っています。

VTのこれからとして、具体的なことはまだ身近なことでは考えられませんが、二次診療病院である当院での将来像は、VTも整形外科、眼科、脳神経外科、内科などの科ごとに分かれ、より深く専門的に特化していくことです。手術を担当するVT、CT、MRI検査の撮影を行うVT、看護を

VTのこれから

- 専門ごとに特化し仕事を行う
- 診断・手術・処方以外のことはVT



【スライド 24】

徹底して行うVTなど、分野分けすることでより深く知識を得ることができ、質の向上にもつながります。【スライド 24】

極端に言うと、獣医師が行う診断、手術、処方以外のことはVTが行えると思います。それにはたくさんのVTが必要ですが、男性のVTでも家族を養っていきけるくらい給料をもらえるようになるには必要なことだと考えています。実現するには本気でVTとして生きていこうと思う気持ちが必要です。私自身もそう思えるまで時間はすごかかりましたし、今でも迷うときもありますが、本気がないといい仕事はできないということはわかりました。

VTの役割とは

- 獣医師の行う診療が患者と飼い主にとってより良いものになるようにサポートすること！
 - そのためにまず・・・
 - 掃除ができること！
(←これができなくて、安心 信頼は得られない)
 - ↓
 - その上で、はじめてより良い看護が提供できるのでは？



【スライド 25】

ここから私が一番皆さんにお伝えしたいことですが、私はVTの役割は獣医師の診療が患者と飼い主にとってより良いものになるようサポートすることだと考えています。そのためにも患者や飼い主、そして獣医師を理解しようとする気持ちは大切です。また、何より自分が1人の飼い主だという気持ちをなくしてはいけないということだと思います。【スライド 25】

病院内のVTの仕事は、まず掃除から始まります。VTは患者や飼い主が不快感なく安心して診療を受けられるようにすることが大切で、そのためにも病院内を清潔に保つことが重要です。そしてそのことが獣医師の診療を円滑にすると考えています。院内が汚いということは、その病院のVTの質

が問われるほど重要なことであり、清潔でない病院では飼い主が自分の大切な家族の一員である動物たちを受診させたり安心して入院させたいとは思わないでしょう。それゆえに、VTにとって掃除とは重要な役割だと考えます。また、VTにとって看護が最も重要な役割であると思いますが、掃除のできないVTによる看護は提供できないとも考えています。

看護と看護力

- 「感性」が重要



【スライド 26】

看護はとても奥深く、VTである限り看護を追求し続けようと思います。患者、そしてその家族とかかわればかわるほど看護力は上がり、担当獣医師とのコミュニケーションが円滑にいけばいくほど提供できる看護は無限大に広がるでしょう。また、質のよい看護を提供するためには感性が重要だと考えています。感性を磨くためにはいろいろな経験をすることです。セミナーに参加し新しい知識を得ること、いろいろな人と出会い話をすること、また、ほかの職業を見ること、自然に触れることなど、感性を磨くための材料はどこにでもあり、自分がそれに気づくかどうかだと考えています。言葉を話せない動物が対象であるため、気づかないふりをしたり、見て見ぬふりはしようと思えば、幾らでもできるのかもしれませんが、しかし、自分が感じたことと常に向き合い、実践していくことによって、VTとしての看護能力は上がっていくと考えています。【スライド 26】

言葉を話せない動物の医療は、人間の小児科と同じようなものだと思います。家族の中の位置づけとして

まとめ



【スライド 27】

も、子供同様であり、私たちVTに求められる役割は、より深いものとなっています。獣医師とともに動物医療にかかわるVTとして、今後はより高い意識と向上心を持ち続けることが何より大切です。VTであることに誇りを持ち、魅力ある職業にしていくことが、現役VTの1人としての私の役割であると考えています。そのために自分が今できることは精いっぱいVTである姿を後輩たちに見せること、自分の思いを人に伝えることだと思っています。ここにいらっしゃる皆さんも、今後VTとしてやっていく中で、どんどん人に自分の思いを伝えていってください。

【スライド 27】



【スライド 28】

私の発表は以上です。御清聴ありがとうございました。

【スライド 28】

○植村座長

富永先生、どうもありがとうございました。

特に会場にお見えになっている、現在学校で学んでおられる皆さん方いかがでしたでしょうか。先ほどの崎山先生と違って、今回はネオ・ベッツという人気医療機関の最先端の病院の御紹介でした。それで、多分1万名ぐらいの動物看護職の皆さん方が、すべてがそういった病院で勤務されるわけではございません。しかし、ちょっとお話の中にも出ていましたように、例えば身だしなみを整えることによって信頼を得る、あるいは掃除なんていうのは本当に一番レベルの低い仕事のように受け取られるかもしれませんが、やはり掃除できないようなことでは専門職になれないんだろうなというふうに、非常に中身の濃いお話であったと思います。このことにつきましても、後のディスカッションの中で、いろいろまたフロアの皆さんから御意見を賜りたいと思います。

富永先生、どうもありがとうございました。

それでは、第1部の講師の先生方をお招きしての講演会は、これにて終わらせていただきます。

本日は第2部の総合討論で長い時間をとっておりますので、この総合討論の中で皆さん方の御意見を賜りながら、

あるいは講師の先生方と対話しながら話を進めていきたいと思えます。

○富永

玉井先生、崎山様、富永様、植村先生ありがとうございました。

先ほども御紹介いたしました、本日はロビーにて阪神・淡路大震災時の動物支援の御様子をパネル展示させていただいております。また、今西乃子先生著「すべての犬に里親を！阪神・淡路大震災 1556 頭のお話」を販売いたしております。動物につながる活動をされている方、目指しておられる方にぜひお読みいただきたい1冊です。受付の横で販売をいたしておりますので、この機会に御購入ください。

パネルディスカッション

座長

- ・植村 興（四條畷学園大学 教授）

パネリスト

- ・玉井 公宏（社団法人 和歌山県獣医師会 会長）
- ・崎山 法子（王寺動物病院 取締役 動物看護師主任）
- ・富永 良子（ネオ・ベッツ VR センター 動物看護士長）

○植村

それではよろしいでしょうか。何か皆さんをせかすようですけれども、時間も限られておりますので、第2部のパネルディスカッション及び質疑応答の方に入らせていただきたいと思えます。

先ほど基調講演をいただきました玉井先生、並びに情報提供をいただきました崎山先生及び富永先生、お三方を交えまして、この第2部の主役はフロアの皆様ですから、ですからフロアの皆様方どんなことでも結構でございます、御意見、あるいは質問等、何でも承りますので、よろしく御協力のほどお願いいたします。

それでは、まず手始めと申しましては何でございますが、本日御講演いただきました玉井先生、崎山先生、富永先生、このお三方に、ほかの演者の講演内容についてのコメントあるいは質問、あるいはその他何でも結構ですので、御意見を賜るところから始めたいと思えます。

玉井先生いかがでしょうか。崎山先生からかなり厳しい内容と、未来の明るい展望のお話がありましたですが。

○玉井

まず私の話の中でも申し上げましたように、一口に動物病院、獣医療の現場と申ししても、先ほど8,000施設あるというお話をしましたが、8,000通りの現場があるわけなんです。それで、どこの病院もみんな一生懸命、何とかいいふう改善しようと思ってやってるわけなんですけれども、なかなかうまくいかない現実があるということがあります。

それで、私の話と、それから崎山さんのお話の中で、あるいは富永さんのお話の中で、シンポジウムの問題提起的に一つ投げかけたいと思うんですけども、例えば動物看護職が専門職としてやっていくと。専門職は専門的な仕事を一生懸命して、地位を高めて待遇も改善していくと、こういうことはみんな共通してると思うんですね。その中で、病院の中で仕事の線引きをして、お互いの領域をきちんと分けましょうというお話がありました。あるいは専門的な仕事をして、専門的な給料を欲してやってるんですから、私の講演の中で申しました雑用という言葉、これに対する考え方が8,000件の病院でみんなまちまちだと思うんです。

例えば私の病院は、私は、きょうは看護職の方の講演ですので、看護職に限って話をしましたが、私の病院では獣医師も全部、掃除から駐車場の隅々まで掃除をします。これは、そういうふうルールになってるということもあるんです

けども、獣医師も看護職も同じようにします。掃除の専門の人がいたり、あるいは受付専門の人がいればそれはそれでいいんですけども、動物の診療というのは非常に情報が少ないんです。限られてるんですね。だから駐車場の中にしてあるうんちだとかおしっこだとか、あるいは自動車から病院の部屋に入ってくるまでの間に血液が点々と落ちてないとか、いろんなことを含めてすべてが情報なんですね。外で掃除をしますと、自動車で急いで大変な顔をして駐車場に入ってくる方もいれば、ゆっくりのんびりと病院に来る前にまず車から降りてお散歩に近くに行くような人もあったり、いろんな情報がつかめるんです。

だから、私の職場においては、雑用という仕事はなくて、掃除も、電話も人に何々さんが何時に来られますと、伝言として受付の人から聞くよりは、その人の生の声でどんなに逼迫してるか、どんなに困ってるか、どんなに悲しんでるかということ、じかに受ける方が、自分の診療に役立つので、だからうちのスタッフには獣医師であれ、看護職の人であれ、みんなにいろんなことをしてもらいます。

だからそんな考えなので、私の話の中で誤解をしていただきたくないのは、看護職の人に掃除をさせて、専門的なこと以外のことをさせてるということでは決してないんです。

ちょっと崎山さんにけんかを売りましたので、お願いします。



○崎山

けんかを売られちゃいましたが、最初に振ったのは私なので、どう責任をとりましょうか。言葉に詰まってしまうんですけども、多分、皆さんが私の言った講演に対して、とてもショックを受けられた方もいらっしゃると思いますし、こんなものでは動物看護師は、じゃあ無理じゃないと思われてる方もいらっしゃると思います。

うちの病院に関してなんですけども、講演の中にもありましたけども、病院の院長だとか獣医師が、そういうやりがいを持ってさせてもらえる仕事を、提供じゃないですけども、うまく住み分けというよりは、混在してるんですけども、お互い重複し合いながらも、うまくしてる。玉井先生の病院でもそうですし、うちの病院でも、きっと富永さんの病院でもそうだと思うんですけども、お手伝いさんのことと言われて

いたのは一昔前の話なんです。

ただ、今、データに出ていたように、全国の病院がじゃあそうなのかなと言われれば、必ずしもそうではないということはお伝えしたい。皆さんにはそういう病院もあるんですよということを、まず知っていただきたい。もちろん、今ここに出てきている私たちのように、看護師にどんどんいろんなことをやらせてあげましょと、どんどんあなたたちは進出していきなさい、サポートしましょと言ってくれる病院、後押ししてくれる病院はたくさんあります。

もし、自分が動物看護師として、いや、朝じゃあ3時間診察あるときだけ入ってもらって、じゃあ夜、夕方5時からまた診察あるときだけ来てくれという病院に、もし自分が就職してしまったときに、胸を張って私は動物看護師としての業務をこなしたい、チャンスをくださいというふうに言ってもらいたいです。なので、実際、むらがあるのは事実ですけども、そのむらをなくして、均一化した医療を飼い主さんに提供していくという部分、まだまだ前進途中なんですけども、その部分をあなた方に担っていただきたいというふうに思っています。

ちょっと答えにはならないかもしれないですね、済みません。

○植村

ありがとうございます。

なかなか仕事の専門職を分担する、分担すると言葉では簡単なんですけども、それぞれの経営状態、あるいは経営規模とかということがありますので、悲しいかな、今の段階では人の医療と獣医療とはかなり違いますので、かなり混乱さも伴う。だけでもその中からやはり専門的な分野を深めていくという努力は必要であろうと、こういうことかなと思います。

それじゃあ、崎山さんの方からもお二方の。例えば先生とこの病院とネオ・ベッツと若干違いますよね。そういうところで、やはり動物看護師の仕事としてもちょっと違った見方があるのかなと思います。

○崎山

では順番に富永さんに同じ動物看護師として伺いたいですけども、最初このお話をいただいたときに、一次医療と二次医療の動物看護師が、それぞれの動物看護についてお話しくださいということなんですけども、一次医療と二次医療の動物看護師の決定的な違いは何ですか。

○富永

そうですね、それは私自身もずっと考えて今現在に至るんですけど、違いはないと私は思います。あえて違いを言うとしたら、患者さんの病気の重症度が高いというだけではないかなと思います。そのほかの看護師としての役割だったり、あり方というのは一次診療でも二次診療でも、どこかの病院でも、そこに患者さんと飼い主さんがいる、獣医師さんがいるということに変わりはないので、そのあたりに関しては

違いはないと思います。でも、うちの病院に関しては、やはり主治医の先生から送られてくる病気の子だったりするので、その先生から送られてくるというのは、やはり健康ではないし、重症の割合というのが高いので、違いと言われれば、それぐらいだと思います。こんな答えでいいですか。

○崎山

ありがとうございます。

○植村

ありがとうございます。

それでは、富永さんは例えば、今、これ、別に動物看護師だけではないんですけども、男女共同参画とか、女性はいろんな大きな人生上の変化がありますもんね。一生専門職として勤めていけるかどうか、障害がいっぱいあると思うんですけどね、富永さんは一生勤めていく価値があると思いますか。

○富永

はい、思います。でもやはり、そのためには崎山さんとも言われていたように、現状というのがあります。正直、勤務時間だったりというのは、やはり会社の理解がないと自分のライフスタイルに合わせた勤務というのは難しいと思います。

うちの病院でもこし初めて今、7年目の動物看護師が、同じ病院の獣医さんなんですけど、結婚して子供を産んで、こしから復帰して戻ってきています。やはり子供が熱を出したとか、そういうことで急にお休みをするということもあるので、本人が多分一番気を遣う、悪いなと思ってたりということもあると思います。そんな中で勤務シフトを通常私たちは9時間なんですけども、朝の8時半から4時半、少し短目で、みんなより少し早く出てくるというようなシフトで働いてくれています。やはり私の病院では初めて、そういうシフトで復帰してくれた子なので、どういふふうに働いてくれるのかなとか、やはり支えてあげないといけないなとかいうところもすごくあります。やはり会社だったり病院の、結局のところ話し合いだったり、納得してもらおうための仕事、どんなことを自分ならできるのか、与えてもらうのぼっかりではだめなので、その中で話をしながら変えていける場所だと思います。

○植村

ありがとうございます。

それでは、何回も繰り返しますけれども、本日の主役はフロアの皆さん方でございますので、まず質問から承りたいと思います。御意見でも結構です。先生方に、玉井先生お願いしますでも結構です、どなたでも結構です、手を挙げてください。何か静かやな。あかん。いかがでしょうか。多分、現在学んでおられる先生方もおられると思いますが、まず、それじゃあ松田先生、先生からは嫌やとさっきおっしゃってましたが。

○松田

いつも質問のトップバッターは松田ということになっているんですけど、このシンポジウムでも皮切りでさせていただきます。

いい御発表をいただいてありがとうございました。先生方それぞれのお立場が違いになるということもおありなんでしょうけれども、玉井先生に、私もクライアントの1人という意味でお願いをしたら、獣医さんがもう少し世間目に向けていただきたいということが大きな問題点であると思いますね。

個人経営の方が多いというところに、難しいことがたくさんおありになることは承知しておりますが、やはり社会の中の獣医師だということが、少し人間のお医者さんと比べて足りないように思います。言葉がきついのは松田の特徴ですので、あしからずお許しいただきたいと思います。そういう点が今後の大きな課題になっていくのかなと。

そこら辺から、お掃除の問題点なんかのところも、与える心の準備が働く人に伝わるんだと思うんですね、結局、価値観的には。だから、獣医さんがお掃除をさせてやってるのではなくて、看護師さんの方からこれは大切な富永さんの御発表にもおありになったように、お掃除というのは動物福祉の基本なんですね。その基本で私はいつもどんなに立派な施設を持っていても、汚い施設ならば動物福祉がないセンターだと思っていいますよって学生さんによくお話しするけど、そのぐらい清潔と動物福祉というのは切っても切れない関係があると。そこでお掃除をさせていただいている、私はいつもボランティアでよくさせていただいてるんだという観念が大切だということを心得てるんですけど、その辺の誤差が大きく影響してるのではないかなと思うんですね。ですから、お掃除が従業員の仕事ではなくて、従業員の方も、これは命令されたからするんじゃないでなくて、動物福祉を守るからしないといけないんだという、双方の関係が最も大きな問題点かなと思います。

崎山さんの御発表の中で、看護師の仕事の守備範囲すべてを引き受けたいというような御趣旨の御発言がありました。これは私は少し今、御検討、再検討いただいた方がいいんじゃないかなと思います。それは対人医療のときに、なぜ専門職ばかりの方々かと思ったら、危険性が大きいからだと思うんですね。レントゲンの許容度を十分に学ばない人がレントゲンを扱うということの怖さからレントゲン専門技師が生まれてる。検査技師も感染症に対する自己感染ということの大切さから、やっぱり専門の、それなりの就業年限を経た方が資格を得てらっしゃると、そういう意味から言いますと、やはり動物だからという、安易に受け取られるような誤解があってはならないと思います。決してそんな意味でおっしゃったのではないと思います。ですけれども、そういう誤解を与えるような意味にとられやすい言葉は、やはりこれからの国

家資格をねらってらっしゃるという上での大きな障害になりかねないと思うので、そこでやはり専門がなぜ専門であるのかということのを再認識して、検討していただきたいと思います。

富永さんの御発表で、先ほど植村先生ともお話ししたときに、おお、一緒だったと思ったのは、先ほどお掃除が大切であるということをおっしゃったんですね。あれは本当にいいことだと思います。本当に清潔ということの大切さというのは、とても大切です、そして獣医師さんのお仕事のもう一つ大切なことに、動物を診ること、診断すること、治療することのほかに、クライアントに対する、オーナーに対する心のケアという部分、それに伴う結局看護師さんの同調したお仕事があると思うんですね。ですからそのところが、人間の小児科と同じところがあって、私は獣医師さんはずっと胸を張ってくださいと、いつも申し上げるんですね。これは人間のお医者さんというのは、生理も解剖も全部同じものを対象として見るんです。でも生理解剖すべてが違う、想像力が巧みでないといけない獣医さんであるというお仕事を、私はすごい、人間のお医者さんにまさるとも劣らないお仕事だということ、誇りを持っていただきたい。その分想像力がものすごくたくましく磨いていただかなくてはいけないと思うんですね。長くなったら朝までしゃべってるかもしれないので、失礼いたします。

○植村

ありがとうございました。

非常に示唆に富んだお話でございました。特に、若い、今学んでおられる方もおられますけれども、やはり我々の給料を上げるとか、社会的地位の向上なんていうのは、まず自分の身の回りから押さえていくというようなことが、いかに大切かということだと思います。

そのほか、どんなことでも結構ですから、御質問ください。あるいは御意見でも結構です。あるいは文句でも結構です。めちゃんことでも結構です。いかがでしょう。

はい、どうぞ。

○質問者

きょうはありがとうございました。

ちょっと質問が四つありまして、二つはちょっと今回の講演とは全然違う内容になるんですけど、もしよかったですらどうか、ちょっと機会なので聞いてみたいところがありますけれども。

まず、今回の講演のところの内容としては、獣医師が、先生が複数いる場合、看護師の担当も決まっているのかということが、私はちょっと興味がありまして。というのは、以前にうちの病院で獣医師が2人いたことがあったんですけども、首からの採血、保定一つにしても、1人の獣医師はあおむけにしてやる。1人の獣医師は普通の犬座姿勢に近い、普通の状態ですね、それで固定するというのでして、

見ていればどっちのくせだというのはわかるんですけども、一瞬わからなくなって、そういうときに、首から採血するときに、普通の犬座姿勢のところを裏返してしまったということで、そこで流れがストップして、先ほど玉井先生がおっしゃっていたように、獣医師と看護師のツーカーの作業がうまくいかなくて流れがストップして、先生が冷やっとするんですね。そういうときに、やはりたくさんの先生がいらっしゃる病院では、ちょっとどうされているのかということが一つ、お答えをお願いします。

二つ目が、先ほど富永先生のお話のときに、面会のとき、飼い主さんの時間を、できるだけ話すようにするとおっしゃっていたんですけども、そのときに、毎回担当の獣医師が毎日1回は顔を出しているということを教えてください。どうしてもうちの病院では、今、獣医師が1人でして、時間がとれない。特に面会を診察時間内をお願いしている部分がありまして、先生が手を離せないというときに、どうされているのかを教えてください。

これはちょっと今回の講演とは違う、あと残り二つなんですけれども、先ほど玉井先生がパネルの方でヒゼンダニが出たんですが、あれは人畜共通感染症で、生体同士でうつるものと、キックというか……にもよりますし、確かにそうなんですけれども、きのう、ヒゼンダニが出た子がいまして、その子がほとんど外に出ないんですよ。飼い主さんがかゆいということで、じゅうたんをかえた。カーペットがかゆいとおっしゃってるんですよ。ほとんど外に出ない子が、じゅうたんをかえたぐらいで治るのかとちょっと疑問に思いました。本にもそういうことは書いてないんですね。やっぱり生体同士でうつし合うというのは書いてるんですけども、もしお考え、症例があれば教えてください。それとじゅうたんとか敷材で乗ってうつってくるのかというのをお願いします。

崎山先生は、経理的なものをされてるということで、ちょっとこちらのきょうの講演とは違うんですが、未納金ですね、お支払いが滞ってる方、これもしお答えになれば、もしアドバイスがあれば教えてください。ちょっと請求をどうされているのかをお願いします。

○植村

それでは、第1の質問は玉井先生。

○玉井

まずツーカーの話ですね。これはツーカーの話というのは、その主導権、仕事の現場、今のまさに動物を前にしたときの主導権というか、どっちが早く気がつくかということになってくると思いますね。その場においては獣医師とか看護師さん、看護職の人ということはある関係なくて、とにかく動物の、今のはやりで言ういわゆる空気を読むということなんです。空気を読んだ者が主導権をとるわけです。

それで、の空気を読んで主導権を持っている、主導権

はイコール責任も負うわけですけども、その人がまずツーカーを発しない限り、カーは返ってこないわけなんです。そのツーカーの出し方が悪い者に対して、いいカーを返せないわけなんです。だからツーカーがうまいこといかないという原因に二つあるわけです。ツーカーの出し方が悪い場合と、カーがうまくない場合と。現場には両方の問題が存在します。その問題のところ、さっき富永さんが言っていたみたいな感性とかということも出てくるわけですけども、一つ獣医療において絶対的に認識をしていただきたいことは、こういう動物のときはあおむけにする、この先生の場合は首を伸ばす、そういうふうな決められるものじゃないんですね。同じ動物であっても、きょうはこういう形で採血する。きのうはこういうふうにしてこっちの血管をつぶしているから、じゃあきょうはこっちだな。こっちだったら右ききの私だったらどうだな。いろいろシチュエーションが違うわけで、その空気を読んだ人が勝ちです。



そして、さっき崎山さんのお話の中にあつたかな。獣医さんが何かしようと思っているのに、何か先々、先々看護師さんに用意されてしまったら、何やねんということになって、気分悪いというお話ありましたね。実際そうなんです。

例えば診断権ということ。ツーカーの前のツーカーの話、空気を読む前の診断権ということになりますと、例えば何々ちゃんが来ました。じゃあ、この子にはこの注射をしようかな、どうしようかなと思っているときに、Aにしようかな、Bにしようかなと思っているのに、きのうAを打ったから、きょうは先生はAを打つに違いないと思って、Aの注射の用意とかをされたら、じゃあ、診療というのはそういう流れ作業というか、前のとおりで、きのうと同じことをやるんじゃないわけで、きのうときょうとは明らかにシチュエーションが違うわけですから、それを診断するのは獣医師の仕事なので、そこをやられるとちょっと痛いところがあるんですね。

だけでも、いろんな面でカーがびんびんと来てほしいというところはあるわけなので、そこは今の言い方をしますと、これは獣医師のわがまま勝手です。今言われた、先生が自分の好きな体位でないと気分悪かったというのも、その人の単なるわがままなので、みんな、私も獣医師も、それから皆さん看護職の方も、相手動物を対象にしてるんですから、

少々のわがままは許してあげてください。今度はだからツアーを、その状況を見て、ツアーをとる。そして獣医師さんがカーに入るというふうにして持っていてもいいんだと思いますね。今のお話を聞く中では。

だから、看護師さんと獣医師さんがペアになって、さっきチーム医療と言いましたが、個人対個人のチームということは、僕は思っていないで、さっき言っているのは、獣医職と看護職とのチームワークということなんで、個人個人のチームはいわゆるローテーションの中でできてくるかもしれないし、それはそれでいいんだけど、そこまであんまり気を遣わなくてもいいんじゃないかなと、そのように思いましたが。

それで答えになっていますかね。

○植村

よろしいでしょうか。

それじゃあ、富永さん、2番目の質問について。

○富永

御質問ありがとうございます。

面会のときに、うちの病院では、面会のときにというか入院の患者さんには担当の獣医師と看護師をつけています。獣医師は基本的には1人なんですけども、看護師は休みががぶらないように、だれか複数、2人であったり3人であったりという担当をつけています。面会のときに、毎回獣医師はかかわりません。看護師が主に対応をして、食事をどれぐらい食べたかとか、元気がどうかとか、うんち、おしっこの状態、吐き気はないかというような一般的な記録をつけている内容はお話しできます。事前に獣医師から、面会に来られたときに、どのようなことをお伝えしたらいいかというも確認というか、事前に聞いています。そういうことで面会に当たって、もしそれ以上わからないことを聞かれたときは、後で先生に電話をしてもらおうか、あとは翌日に先生の時間を予約をとってもらおうという形で、わからないことは絶対に答えてはいけないので、そういう形で基本的には看護師だけで対応します。そういう答えでいいですか。

あと、やっぱり日ごろの診療の中では忙しくて、面会の対応というのは正直大変なときもあるんですけど、うちの病院ではちょっと時間帯を少し最近変えました。最初は10時から8時という時間帯だったんですけども、やっぱり朝の処置の後というのはばたばたするので、ちょっと1時間ですけれどもおくらせて、11時から8時。理想を言えば、もっと短い時間にされた方が、きちんとした対応ができると思いますね。その病院に合わせて、よくない対応をするくらいだったら、病院の時間帯に面会をされてるというようなところというのは、すごくいいことだと思います。

答えになっていますか。よろしいでしょうか。

○植村

それでは、ちょっと疥癬のじゅうたんのことはちょっと飛ばしまして、経営を先に。

○崎山

やっぱり保険が利かない分、治療費が高額になることはまああることなんです。高額になるときに限って「ないんです」、最初に見積もりをお渡しして、幾ら幾らかかります、退院の日はこれだけ用意してくださいねと言ったとしても、「いや、きょうはこれしかないんです」という方もたくさんいらっしゃいます。

一番の予防は、精算のときに未収金をつくらないことなので、見積書をつくって、事前に、退院の前にはお知らせをしてということをやります。やはりそれでも未収金はなくなるので、毎月1回請求書を出しています。請求書を何回も出しても、なかなかお支払いいただけない場合は、一度お電話を差し上げます。お電話しても、なかなかお支払いがない場合は、担当獣医師と院長とで御自宅までお伺いして、料金を払っていただくようお願いするというシステムをとっています。

なかなか現金をそんなにたくさんという問題もありましたので、カードの導入も当院ではしております。

○植村

それでは玉井先生。

○玉井

私の説明のときに、もうちょっと時間をかけてやればよかったんですけども、学生さんの方もおられるというふう聞いてますので、もう1回説明しておきますと、私のスライドの中で、こっちまでちょっと生きたまま持つてくるのは大変だったんですけども、ごそごそ動いていたのが穿孔ヒゼンダニというダニの仲間です。もちろん目には見えません。あれは顕微鏡写真なんですけども、それが犬や猫と、それから人間と両方に悪さをすることがわかかっていて、犬や猫と人間と、両方に悪さをする病気を、人と動物に共通する感染症、感染というのうつつことですね。うつつ病気と言います。ズーノーシスという言葉で皆さんは学校で習われているかもしれませんが。

今回は、ヒゼンダニの話なんですけど、これが今のじゅうたんにくっついてきたのかどうかということは、非常に疑わしい。じゅうたんが来てからかゆくなって、そして検出した、見つけたわけですね。よっぽどそのじゅうたん屋さんのところに猫とかがいて、かゆい病気なので、ぼりぼりかいていて、それごとおうちへ運んでこられたということは可能性としてはありますけど、率は低いと思いますね。だから、たまたま偶然だと思っています。

今、いろんなこのヒゼンダニ、問題になっていますので、だから動物病院でその動物を診療して、これは人にもうつる

かもしれないよと言ったら、まずスタッフもうつらないように気をつけないといけないんだけど、おうちでどなたかかゆい人はいないですか。我々動物病院では人間を診療することは法的にもできませんから、もしかゆい人がいたら、皮膚科の先生に言ってくださいね。あるいは今後かゆくなる場合もそうです。そのときにはうちの飼い猫、飼い犬から穿孔ヒゼンダニが見つかったと獣医先生から言われましたということをお伝えしてください。そしたら無駄な検査だとかいرونなことをしないで、もう即、それは治してもらえます。

また逆に、私たちはCAPP活動といって、いろんな施設を動物を連れていく活動もしてるんですが、そういうボランティアで行ってる動物たちが、そういうところでそういう共通感染症をもらってくることがあります。だから、先ほども言いましたように非常に情報の少ない中で私たちは仕事をしますので、コミュニケーション、看護職の人たちと私たちも一緒になって飼い主さんといろんなお話をする中で、こういう共通感染症のきっかけをキャッチして、そしてひどくなる前に私たちが適切な説明をしてあげる。動物を治療するのは私たちですけども、人は皮膚科に行ってもら。そういうことの話をしたんです。

今の直接的な御質問、このダニがじゅうたんからうつったということは、率は少ないと思います。何かほかの原因があって、たまたまじゅうたんをかえた日からかゆくなったかもしれない。あるいはそれでアレルギーが起こって、かゆみが別に出て、たまたま見つけたらいたのかもわからんし、いろんなことがあるでしょうけどもね。何であれ、それがいるということは、どこも出ないのということ、野良猫なんか近所にて運んできたとか、そこのおうちの人が運んでいるとか、何であれ、わいて出るわけじゃないんで、どっかからうつったんで、それを探偵みたいに推理していくのも僕たちの、皆さん方と一緒にやってやる、こんなのはよそで、あ、これは記録に残るとかでしたらやばいですけども、楽しい仕事なんです。探偵ごっこもできます。

○植村

よろしいでしょうか。

それではほかに。できたら学生さんから質問欲しいですね。もう指名しようかな。そこの列の黒い服、前から3番目の女性の、そうそう、あなた、あなた。何か質問をください。何でも結構ですから、お願いします。よろしく。何でも結構ですよ。何か自分の希望でもいい。今、勉強してるの。何年生。初めて。1年生。期待どおり動物介護職というのは、こうやって勉強をしてなりたいなと思ってる。きょう、先輩の話聞いてどう。わかった、わからんことなかった。

○質問者

技術的なことが多いかなと思っていました。

○植村

ああ。もっと技術的な方を、仕事をしたいということね。

○質問者

してるといっても……。

○植村

そうですか。いろいろ受付もあるし、人とのつき合いもあるし大変だな。まあ大変なんですよ、実際ね。

そういうアドバイスを何かしてあげてください。事務的なことが多過ぎるんじゃないかという……。

○崎山

正直多いと思います。今の、この年になって思うんですけど、最初は体を動かすだけで、動物を持ったりとか、いろいろ体を動かすだけでいいです。正直なところ。でも、だんだん年をとって経験を積んでくると、それだけでは体の体力もあるし、それだけ同じことを、若い子と同じようなことだけをやっていては、やっぱり必要な人材にはなりにくいところがあります。やっぱり技術的にはどんどんよくなっていくので、そういうしがらみはあると思うんですけど。やっぱり病院によっては経理のような仕事をされたりとか、あとはそういう頭を使う仕事、体を使う仕事から、体プラス頭を使う仕事に経験を積んでいくと変わっていくんだというふうに思います。だから、私たちは結構長く働いている方の看護師なんで、内容としてはそういう事務的なことが多い内容にはなってると思います。

○植村

またね、いろいろとしっかりと勉強してくださいね。

申しわけないけど、そこに男性の方がおられるんだけど、あなたも今、学生さん。ちょっと意見を聞かせてよ。質問か何かない。私もね、人の看護師さんの学校へ教えに行ってるんですけどね、以前はね、30名のところ男性が1人か2人だったんですけども、今ね、七、八人男性がいるんですね。だから、動物看護師の世界でも、男性も先駆者になってばんばんやっていただくというのを、ある意味で刺激を与え、あるいは活力を与えるということで、非常に楽しみなんですけれども。何か御意見ないですか。何でも言いたいことを、何でも言ってちょうだい。

○質問者

今言っていたいただいたこと。やっぱり看護師って女性が多いじゃないですか。男も結構、実際どれぐらいいて、やめられた人も多い。

○植村

男性の動物看護師、ちょっと情報を私は持ってないんで。

○富永

うちの病院では、全部で、私を含めて看護師は19人いるんですけど、男性の看護師は2人です。まだ入って一、二年なので、やめるまではいってないんですけど、仕事として

は女性の看護師と同じことをします。あとは、やっぱり男性女性で得意不得意というのはどうしてもあるので、例えばうちの病院だと整形外科の手術がすごく多いんですけど、そういった整形外科のピンとかねじとか、そういう器具とかというのは男の人の方が得意だったりします。あとはパソコンとかそういうのもどんどん使っていくとけないので、やっぱり女の人より男の人の方が得意な人もいます。なので、何か男性ならではの得意分野というか、特化したところというのがあっていいと思います。あとは体力的に大型犬を持ってもらうとか、力仕事というのは必然となってくるのだと思うんですけど。それ以外の、ならではの得意分野、アピールポイントというか、そういうのがあれば、動物病院でも生き残りやすいというか、そういうところを期待する部分も私はあります。

○植村

ありがとうございます。

決して女性が独占する職ではないと。男性の特性を生かした仕事の分野もあるということだと思います。

そのほか、どなたか。はい、どうぞ。

○質問者

きょうはお話をありがとうございました。

富永さんに御質問があるんですけど、VRセンターの方にうちの患者もお世話になったことがありまして、MRIだったんですけど、やっぱり内容は全身麻酔だと思うんですが、どういうふうの流れ、撮影しているのかなということを、ちょっと御質問したいんですけど、お願いします。

○富永

ありがとうございます。

やはりCTとかMRIというような麻酔をかける患者さんがすごく多いです。流れとしては先に問診を看護師がとります。問診をとって、獣医師に伝えて、獣医師と一緒に入ります。そこから獣医師の身体検査があったり、いろいろな診察が始まります。

あとはそれが終わって、わんちゃん猫ちゃんをお預かりします。お預かりして撮影が終了するまで1,2時間かかるので、院内で待っていただくか、近くで時間をつぶしていただきます。お預かりをして、看護師がうちの病院でも採血や……とこのをするんですけども、獣医師側の指示でそういった処置を行います。主治医さんの方で血液検査をされていなければ、麻酔をかける前ですので、血液検査も行います。されていたとしても、必要な項目があれば、再度血液検査を行うこともあります。

あとは、その他検査を行って、安全に麻酔がかけられるかというのを、まず確認の検査を行います。麻酔がかけられる状態だということを前提で、麻酔をかけるんですけども、麻酔は静脈からまず注射麻酔を入れ、気管内挿管をします。

それで、……麻酔薬、酸素を一緒に流したものを気管チューブから吸入させながら、モニタリングをしながら、まずは状態を安定させます。

それでCTであればそのままCT室で行っているんですけども、MRI室であれば、すごく磁石でくっつくようなものを持ってはいると、機械にくっついてしまったりするので、導入後、麻酔が落ち着くまでというのはMRI室以外の処置室で行って、MRI室に運びます。CT室はそのまま検査続行するので、検査中は静脈から点滴を行って撮影をします。その間はずっと心電図だったり、……とかのモニタリングはずっと行いながら検査をします。そして、検査が終わったら麻酔から覚めます。

麻酔から、とりあえず頭が上がるまでは、そこの処置室にいますけど、大分もう自分で抜管もできてしっかりしてくればケージに戻って、自分でしっかり立てるようになるよというのはずっと見えています。飼い主さんと先生が結果についてお話をされてる間もずっと患者さんを見ていて、もうお話が終わって帰れるような状態だということであれば、……を外してお返しをするという感じです。

そのお返しの際に、用紙を1枚お渡ししていて、きょうは麻酔をかけました。麻酔をかけたあとは食事やお水をうまく飲み込めないことがあるので、以下のことを注意してくださいという形で、お水は何時から、お食事は何時から、いつもの半分の量でちゃんとごっくんできるのを確認するまで、ちょっと様子を見てくださいとかというような注意書きを渡して、あとはCTやMRIの画像をCD-Rに焼いて、それを獣医師さんに持って行っていただくというような流れです。あとは動物病院の先生が来られるときは、その場で一緒に説明を聞かれて、帰られるというような流れです。

済みません、説明が長くて。

○質問者

ありがとうございました。

○植村

よろしいですか。

それでは大分時間が迫ってまいりましたので、何か先輩でありますとか、業界の皆様方おられましたら、ちょっとコメントとか御意見とかいただけたらありがたいですが、いかがでしょうか。

高山部長、何かコメントいただけません。ごめんなさい。

○高山

今日は貴重な講演をありがとうございました。

突然の御指名で、もう終わろうと思ったんですけども。今回のKnotsさんに行っていました動物看護師の講演なんですけども、弊社の社長でありますハマーが、従来だったら、この仕事には携わっておりまして、従来から日本での動物看護師の仕事と、それから海外での仕事というものの比

較、厳密なものは、その感じ方だけではないんですけども、日本でどういふふうに関わっておられるのかということが非常に気になっていたみたいで、それで弊社というのはフードを扱っている会社なんですけども、ペットフードを患者さんに薦めていただくときの大きな役割が獣医の先生よりも、あるいは実際に手術をされた先生よりも、動物看護師の先生の方が、よりコミュニケーションをとってるのではないかという、海外の事例をもとに、日本でどうなのかということで、今回の講演会になりました。



ちょうど日本で看護師を法的に大きなものにしていこうということが、同時にことしから起こっておりまして、実は社長はそのことは全く知らずに、自分たちのフードをどういふふうにお使いいただくかということで、その看護師の役割に関して非常に興味を持っていたもので、それがちょうど時が同じになりまして、このようなことになったわけなんですけども、非常にためになる、そういうような役割的にも非常に興味のあるお話をいただきましたので、本当にありがとうございます。

質問でも何でもありませんけども、きょう皆様には忙しい中集まっていただきまして、ありがとうございます。社長にかわりまして、ごあいさつさせていただきます。

○植村

どうもありがとうございます。

最後、まとめないかんなんですけども、結局、最初に玉井先生のおっしゃってましたように、動物看護師がきちっと仕事を一緒にしていただかないと、日本の獣医療は進まないんだということだったと思います。

私はきょうのレジユメのところを変なタイトルをつけたんですけども、獣医療というのは最終的にやはり人の幸せを支える一つの分野ですので、最終的には人間が幸せになる、ちょっと大げさに言えば世界が平和になる、そういうことなんです。そのためには、やはりそれぞれの持ち分に対して責任を持たないといけないということですね。

ですから、それぞれということですから、動物看護職は

アシスタントではない、アソシエートなんです。獣医療全般から見ればアソシエートである。仲間、チーム、チーム医療だと、こういう観点なんです。

それからもう一つは、これはまあいいんですけど、テクニシャンで、例えば給料を、待遇をよくしてもらおうとすれば、やはり単なるテクニシャンではなくてスペシャリストにならなければならない。これは崎山さんが紹介されましたように、任せてくれというところまでやっぱり持っていけない。崎山さんは経営者であるわけですけども、そういうスペシャリストがいないと、包括的というか獣医療が動かないんですね。こういう立場ですから、車の両輪ですから、それを進めていくということが大切だということですね。

それから、先ほどのハマー社長のお話も、高山部長から紹介していただきましたけど、やはりこの獣医療関係者全部が、やはり社会的地位を上げないかんわけですね。そのためにはちょっと難しい言葉ですけども、先ほど松田さんから一番初めにアドバイスをいただいたんですけども、獣医師さんはきれい、きれいにしなさいよというようなことが一番になるわけですけども、難しい言葉で言えば、CSRというんですね。コーポレート・ソーシャル・レスポンシビリティ、えらい、ちょっと難しいことでごめんなさいね。いわゆる専門家というのは、何か変わった人間で、仕事はするけれど、何か世の中から隔離しているよと、これではだめなんです。社会に対して何か貢献をせないかん。そういうのがCSRと言うんですね。

それから、もう一つは、ちょっとこれも議論がかなり激しくなってきた分野が、やっぱり専門職の間のあつれきがあるんですね。もう私は犬のこと、猫のことは知ってるねん、注射も全部やるわということになると、獣医師と動物看護師の間で摩擦ができてくるといろいろなことがあるわけですね。そういうことをきちっと整理するというのが、これもまた難しい言葉でごめんなさいね、職業倫理と言うんですね。英語ではエンジニアリング・エシックスと言うんですね、職業倫理。ですから、それぞれの専門職は自分の役割を、責任の範囲をきちっと理解して、そうすることによって初めてアソシエートになれるわけですね。協力者。獣医療、動物医療全般の専門家が分担してやるということですね。

ですからきょうは若い学生さんもたくさんおられますけれども、そういうことをこれから我々、個人的には大分もう年をとってますから、次の世代にバトンタッチしますけども、Knotsさんを始めとして、玉井先生、獣医師会もみんな取り組んでますんで、ですから将来の展望は非常に明るいと、こういうふうに思います。

きょうは、非常に大事な時期なんです。この次の、きょうがホップとすれば、次のステップは先ほど玉井先生がお話しされました新しい全国協議会が来年の1月にスタートしま

す。それがステップですね。それからジャンプは来年の12月に国際会議をやるということで、これはどうしても成功させなければならない。そうすることによって、神戸から新しい形の動物看護職の専門職としての位置づけをちゃんとする。これを世界に発信するという、そういう意味で、きょうは本当に大変意義のある会議だったと思います。それでは、つたない司会で少し時間が押ししましたが、第2部のパネルディスカッションはこれで閉めたいと思います。

先生方にもう一度拍手をお願いします。

○富永

植村先生、本当にありがとうございました。植村先生にもう一度拍手をお願いします。

また、パネラーの皆様、私よりもう一度御礼申し上げます。皆様、本当にありがとうございました。

大変長いお時間皆様におつき合いいただきましたけれども、私からも一言申し上げたいと思います。

本日のキーワードというのは、「責任」という言葉ではなかったかと、私は存じております。その責任を自覚するその先にさまざまな世界が広がってくるんだと思います。皆様はそのことを、本日お伝えしたと思いますし、先ほど植村先生にも言っていただきましたが、この責任という言葉テーマとした2009年12月の会議の方に、このお考えをしっかりと持たれた形で御参加をぜひお待ち申し上げたいと思います。

それでは、これをもちまして第8回ふ・らぶ、あにまるゼミナール2008「動物看護師の役割について」を終了したいと思います。本ゼミナールにつきましては、第1回目の開催より、先ほど高山部長がごあいさつをくださいました特別協賛としてネスレペリナペットケア株式会社様、助成団体として財団法人中内力コンベンション振興財団様にならず御支援をいただいております。また、本会場となっております学校法人神戸学園神戸動植物環境専門学校様及び日本動物看護学会様には御協力団体として、その他御後援を環境省、兵庫県、神戸市、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、社団法人日本獣医師会、社団法人兵庫県獣医師会、社団法人神戸市獣医師会、財団法人日本動物愛護協会、社団法人日本動物保護管理協会、社団法人日本動物福祉協会、社団法人日本愛玩動物協会、社団法人日本動物病院福祉協会様より賜っております。

この場をお借りいたしまして、このゼミナールの開催に多大な御尽力をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。いつも本当にありがとうございます。

それでは、本当に長い時間ご協力くださいましてありがとうございます。では、私の方から今一度大震災動物救護メモリアル協議会様の御協力により展示させていただいており



ますパネルの方をごらんいただき、また動物救援の様子をまとめた今西さんの御本の方もごらんいただいで、ぜひお求めになっていただきたいと思います。

皆様、本日は本当にありがとうございました。

発行：2008年12月23日

特定非営利活動法人 Knots

〒650-0004 神戸市中央区中山手通 6-6-7-405

TEL/FAX:078-341-5884

URL: www.knots.or.jp

E-mail: info@knots.or.jp

Copyright (c) 2008 "NPO Knots" No reproduction or republication without written permission.